

長岡市障害者生活実態調査報告 (概要)

集計・分析

長岡大学 米山 宗久

1.調査目的

- 障害者の生活実態等の把握
- 第5期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画の
基礎資料（平成30年度～平成32年度）

2.調査設計と回収結果

調査区分	(1)在宅者調査			(2)施設入所者調査	(3)高齢者調査
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳以上65歳未満の方			新潟県内の障害児・者入所施設に入所している18歳以上の方	障害者手帳(身体障害者手帳(10%抽出)、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している65歳以上の方
調査票名称(略称)	調査票A (A票)	調査票B (B票)	調査票C (C票)	調査票D (D票)	調査票E (E票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳		身体障害者手帳 療育手帳 精神保健福祉手帳
調査方法	配票・回収ともに郵送法				
対象者数(送付数)	2,057人	1,215人	1,303人	378人	1,034人
有効回収数	1,286人	811人	791人	277人	801人
有効回答率	62.5%	66.7%	60.7%	73.3%	77.5%
調査基準日	平成28年4月1日				
調査期間	平成28年9月23日～10月7日				平成28年9月30日 ～10月14日

調査区分	(4)障害児調査				
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳未満の方				
	就学前児童	小学校段階	中学校段階	高等学校段階	義務教育修了後・高等学校等に未就学
調査票名称(略称)	調査票F-1 (F-1票)	調査票F-2 (F-2票)	調査票F-3 (F-3票)	調査票F-4 (F-4票)	調査票F-5 (F-5票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳				
調査方法	配票・回収ともに郵送法				
対象者数(送付数)	519人				
有効回収数	52人	127人	66人	87人	13人
有効回答率	66.5%				
調査基準日	平成28年4月1日				
調査期間	平成28年9月23日～10月7日				

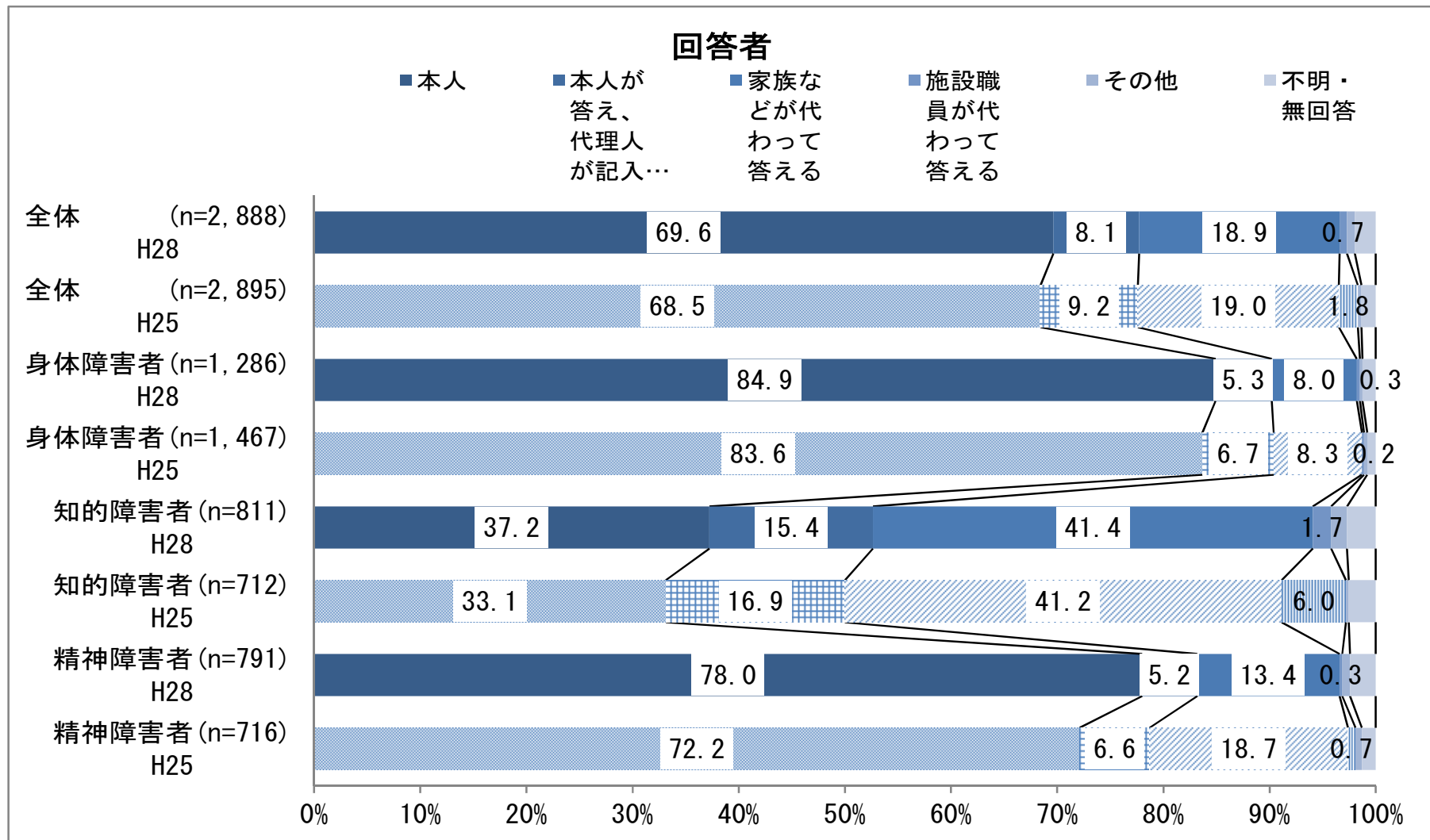
3.主な調査項目

- H25調査と今回調査の経年比較を基本とし、調査項目はH25調査と概ね同様
- A票、B票、C票は、就労状況と就労意向
- D票は、地域生活移行に対する意向
- E票は、介護保険サービス利用状況
- F票は、受けている教育(療育)段階に応じて、学校・サービス・就労・進路など

項目	在宅者調査 A票、B票、C票	施設入所者調査 D票	高齢者調査 E票
基本属性	○	○	○
生活の場について	○	○	○
就労について	○		
介護保険サービスの 利用について			○
入院・通院について	○		○
外出について	○	○	○
相談窓口について	○	○	○
災害時について	○		○
障害のある人への差 別について	○	○	○

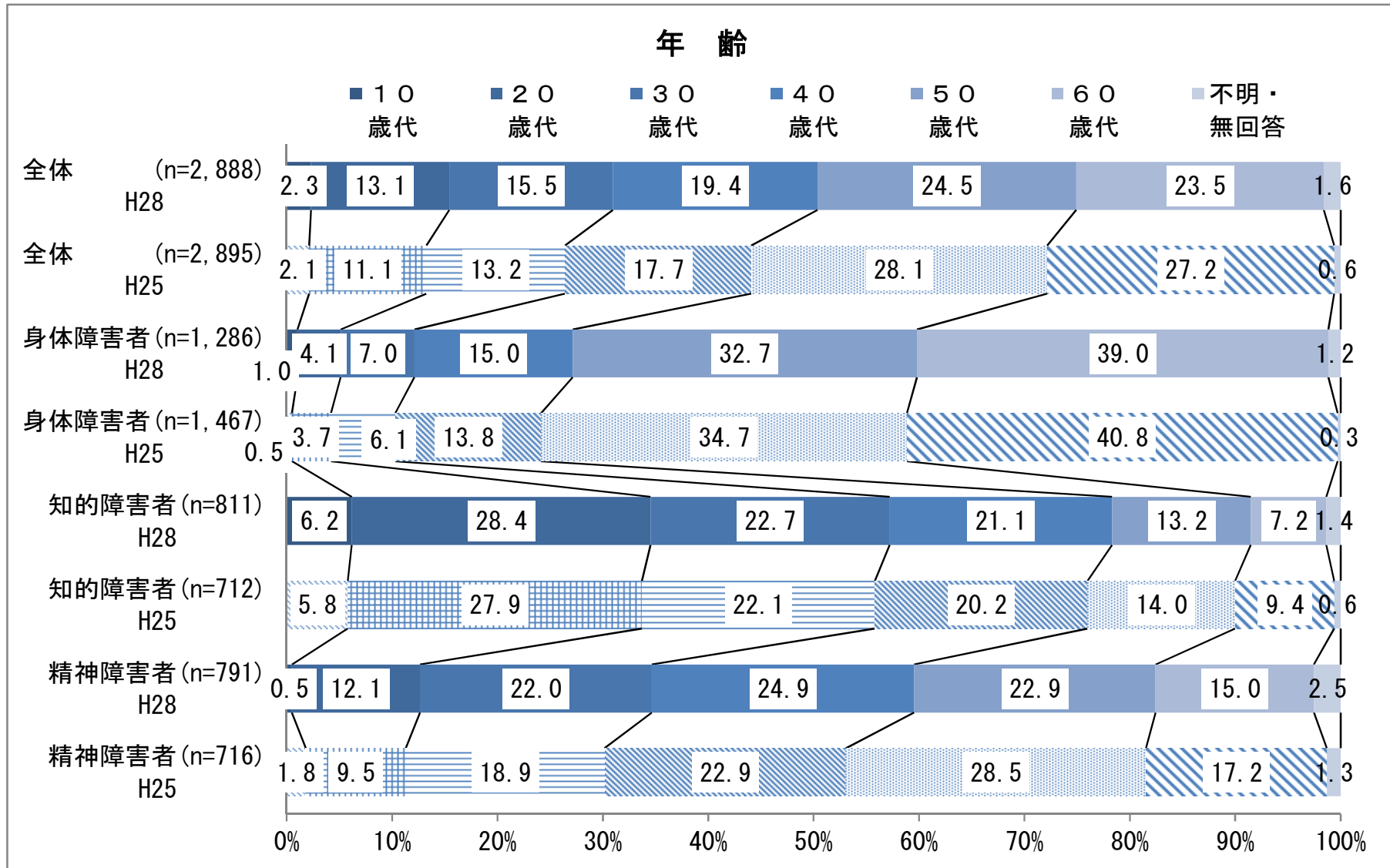
項目		F-1票	F-2票、F-3票 F-4票	F-5票
共通 回答 項目 (Ⅰ)	基本属性	○ (全票共通)		
	相談窓口について			
	相談支援ファイル「すこ やかファイル」について			
	預かりサービスについて			
	障害のある人への差別 について			
個別 回答 項目 (Ⅱ)	学校について		○	
	サービス利用について	○	○	
	就労について			○
	生活の場について			○
	外出について			○
	相談場所について	○	○	○
	保育園や幼稚園、認定こ ども園の利用について	○		
	個別の教育支援計画及 び指導計画について		○	
	進学・進路先について	○	○	

4.回答者の属性(1-1) A票・B票・C票



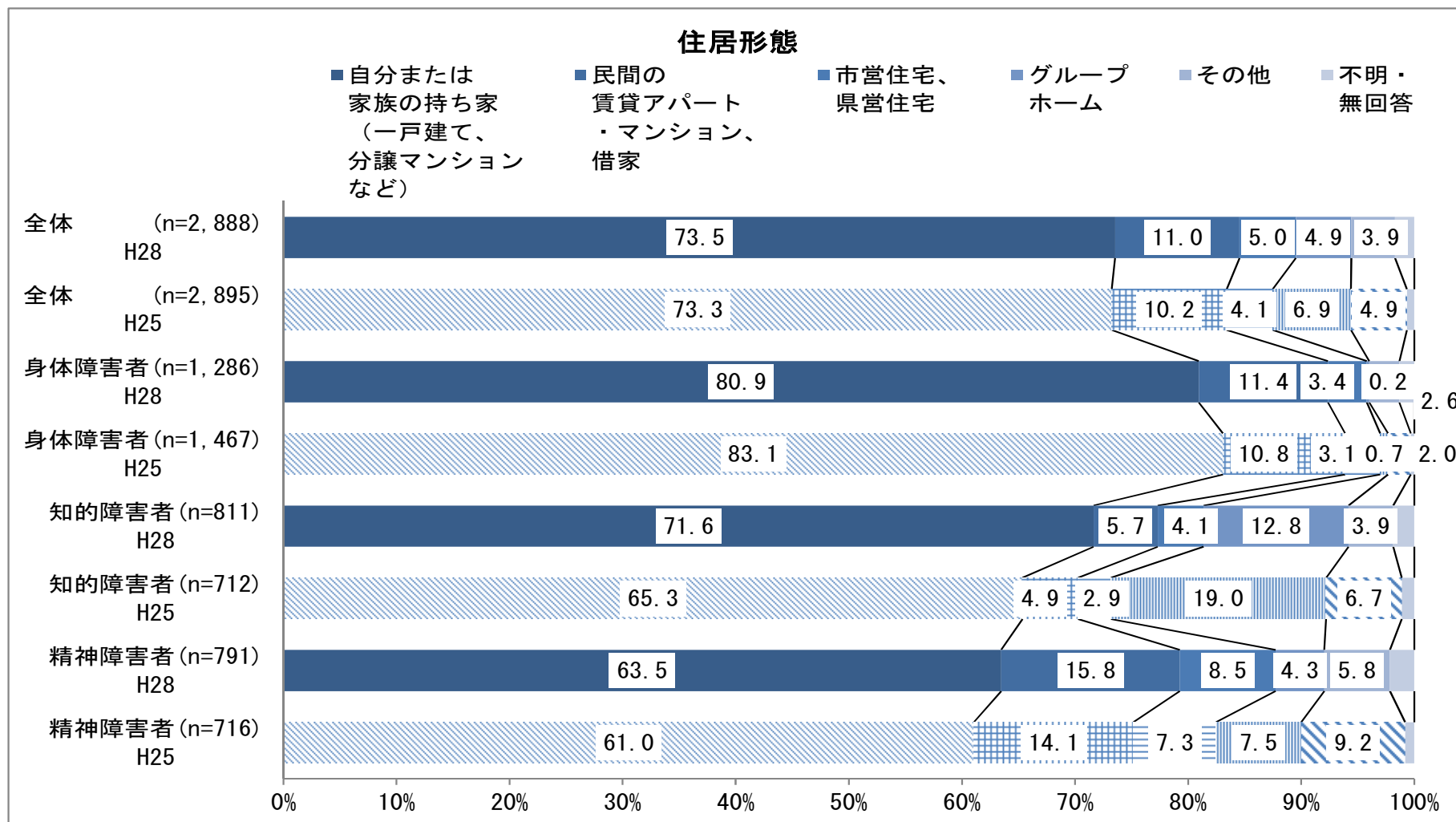
○全体では、「本人」が約7割。「家族などが代わって答える」が2割弱。「本人が答え、代理人が記入する」が約1割である。H25調査と比較すると、精神障害者の「本人」が6ポイント高い。

4.回答者の属性(1-2) A票・B票・C票



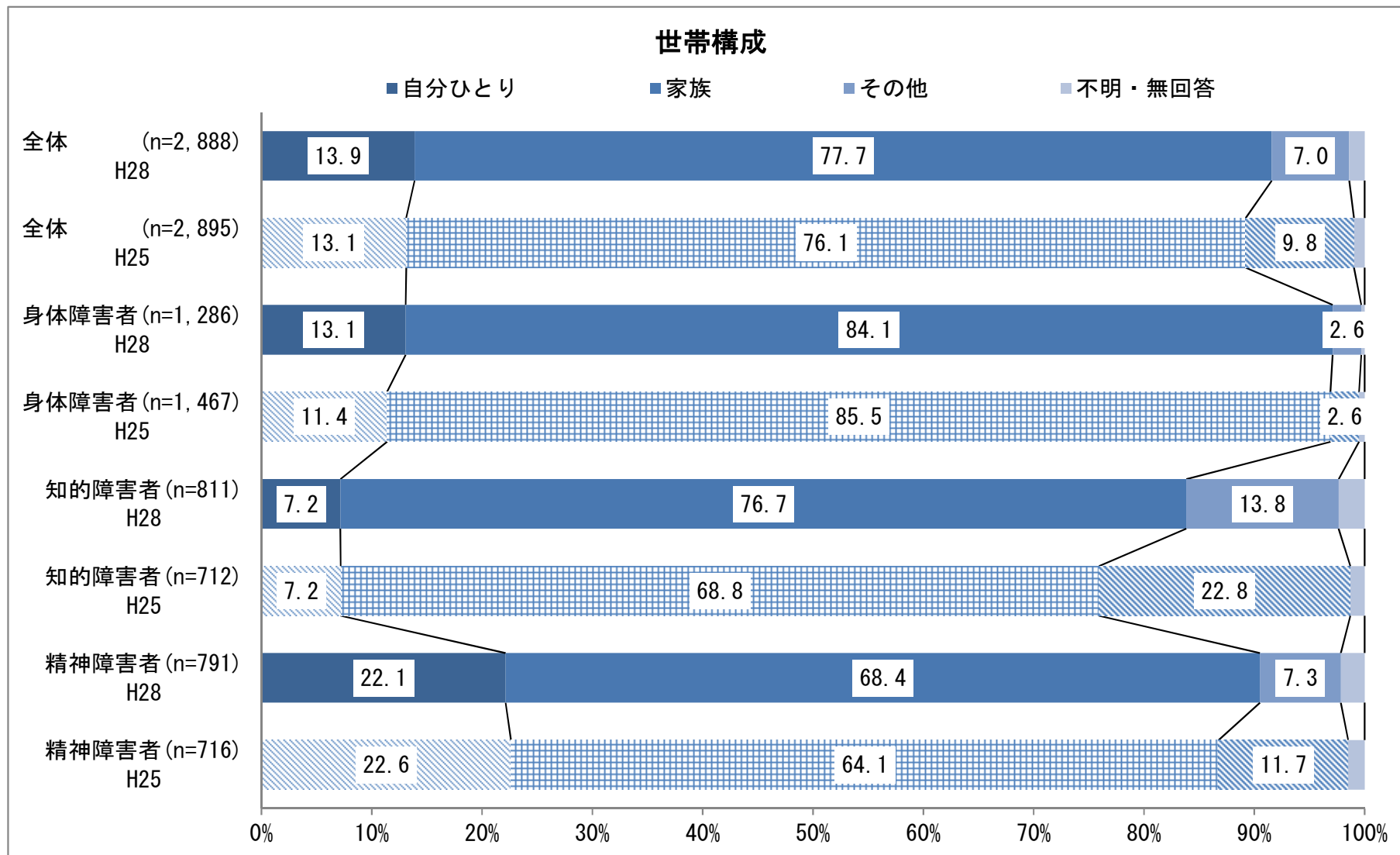
○全体では、「50歳代」「60歳代」「40歳代」「30歳代」「20歳代」「10歳代」の順である。H25調査と変化はない。障害種別では、身体障害者は「60歳代」、知的障害者は「20歳代」、精神障害者は「40歳代」が高い。

4.回答者の属性(1-3) A票・B票・C票



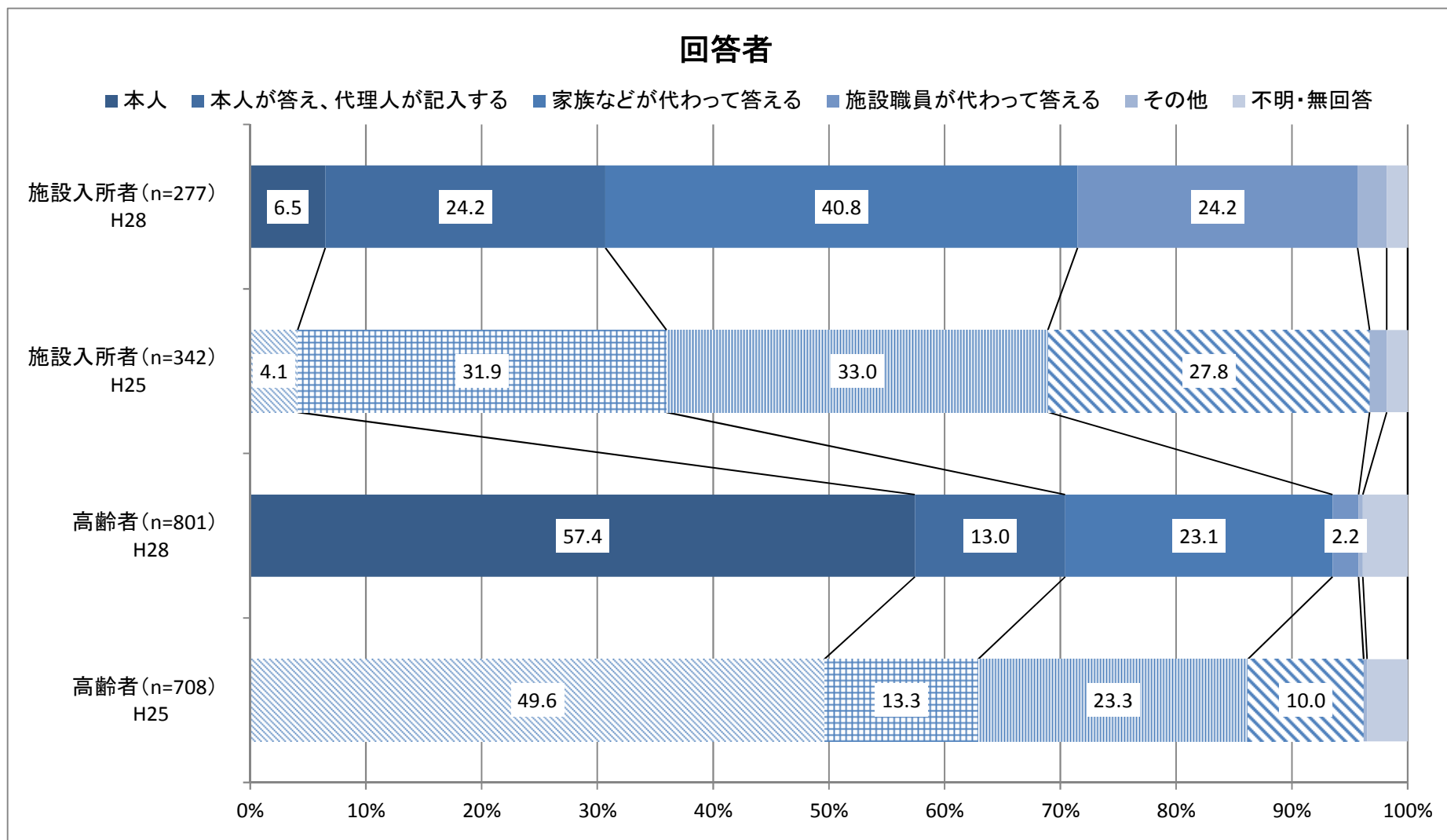
○全体では、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」(73.5%)と「民間の賃貸アパート・マンション、借家」(11.0%)で、84.5%である。H25調査と変化は少ない。H25調査と比較すると、知的障害者では、「グループホーム」(12.8%)が6ポイント低い。

4.回答者の属性(1-4) A票・B票・C票



○全体では、「家族」と暮らしている人が77.7%、「自分ひとり」の人が1割強。H25調査と変化は少ない。

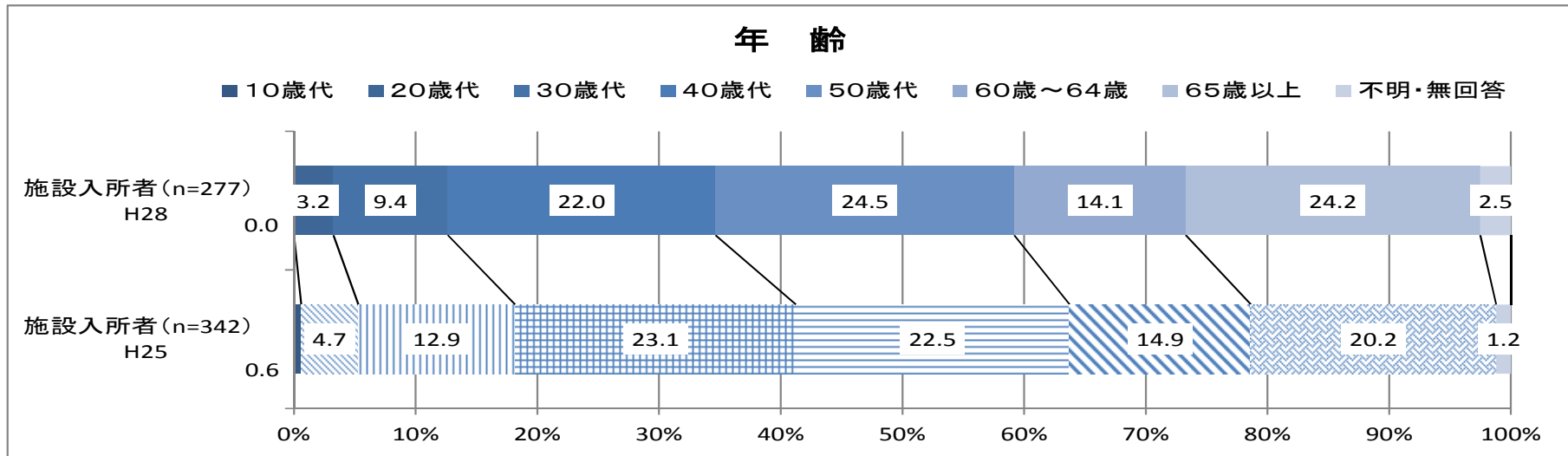
4.回答者の属性(2-1) D票・E票



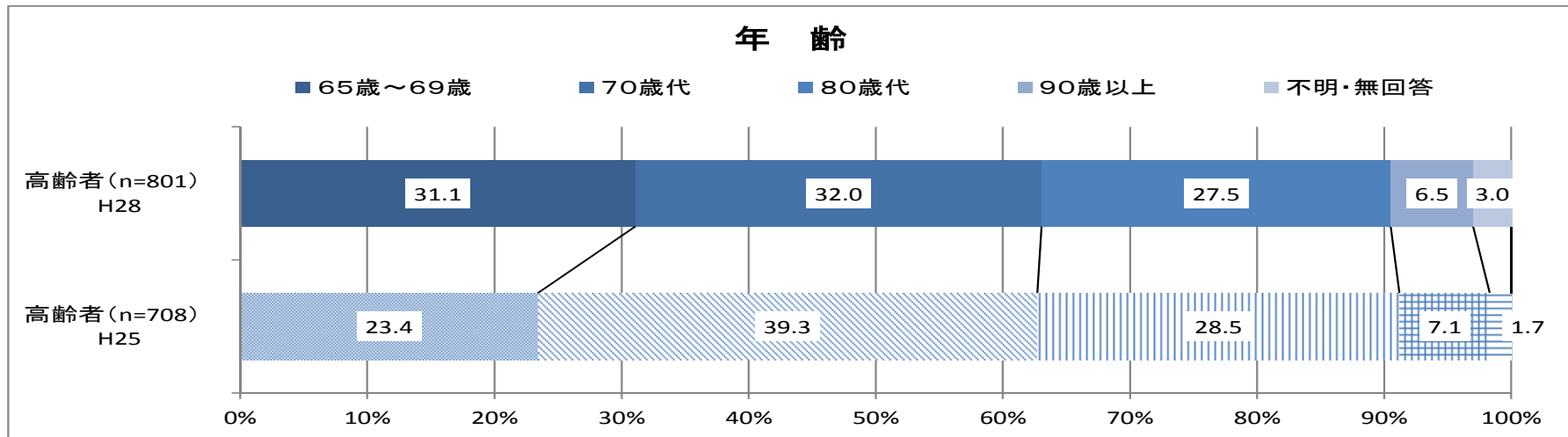
○施設入所者は「家族などが代わって答える」が4割。H25調査と比べると8ポイントほど高い。

○高齢者は「本人」が約6割。H25調査と比べると8ポイントほど高い。

4.回答者の属性(2-2) D票・E票

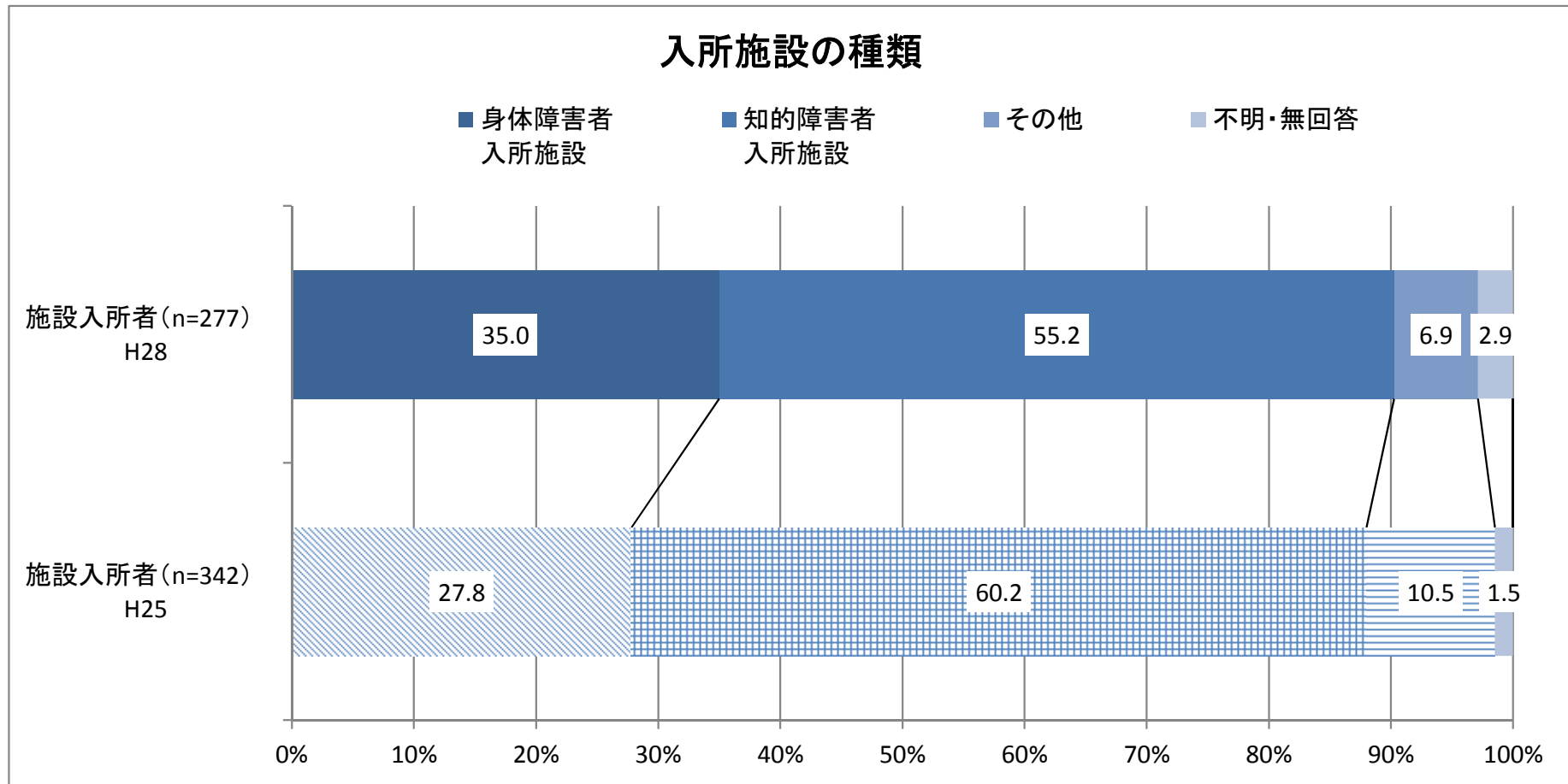


○割合の高い順に、「50歳代」「65歳以上」「40歳代」「60~64歳」「30歳代」「20歳代」。



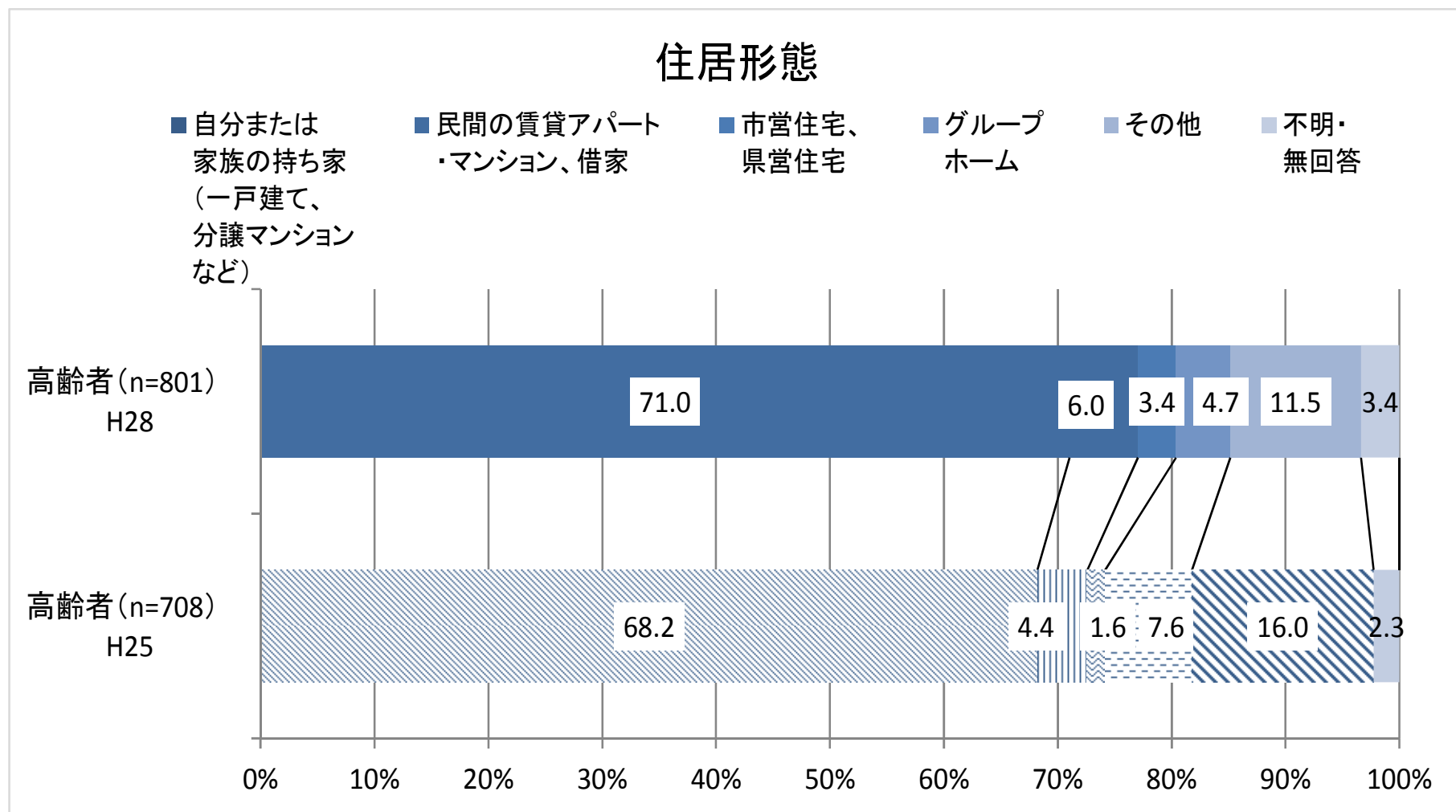
○割合の高い順に、「70歳代」「65~69歳」「80歳代」「90歳以上」。

4.回答者の属性(2-3) D票



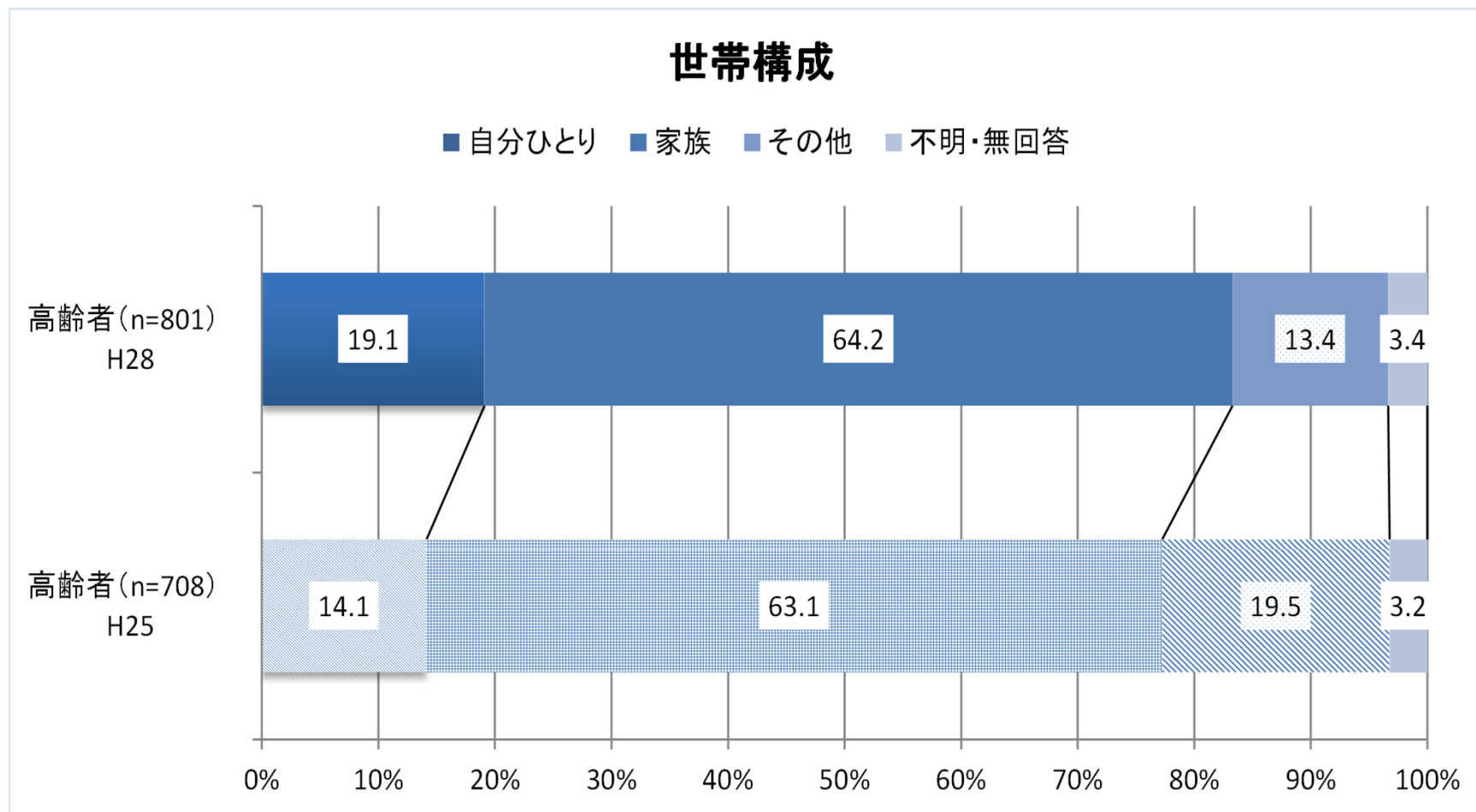
○「知的障害者入所施設」が55.2%、「身体障害者入所施設」が35.0%。H25調査と比較すると「身体障害者入所施設」が7ポイント高くなった。

4.回答者の属性(2-4) E票



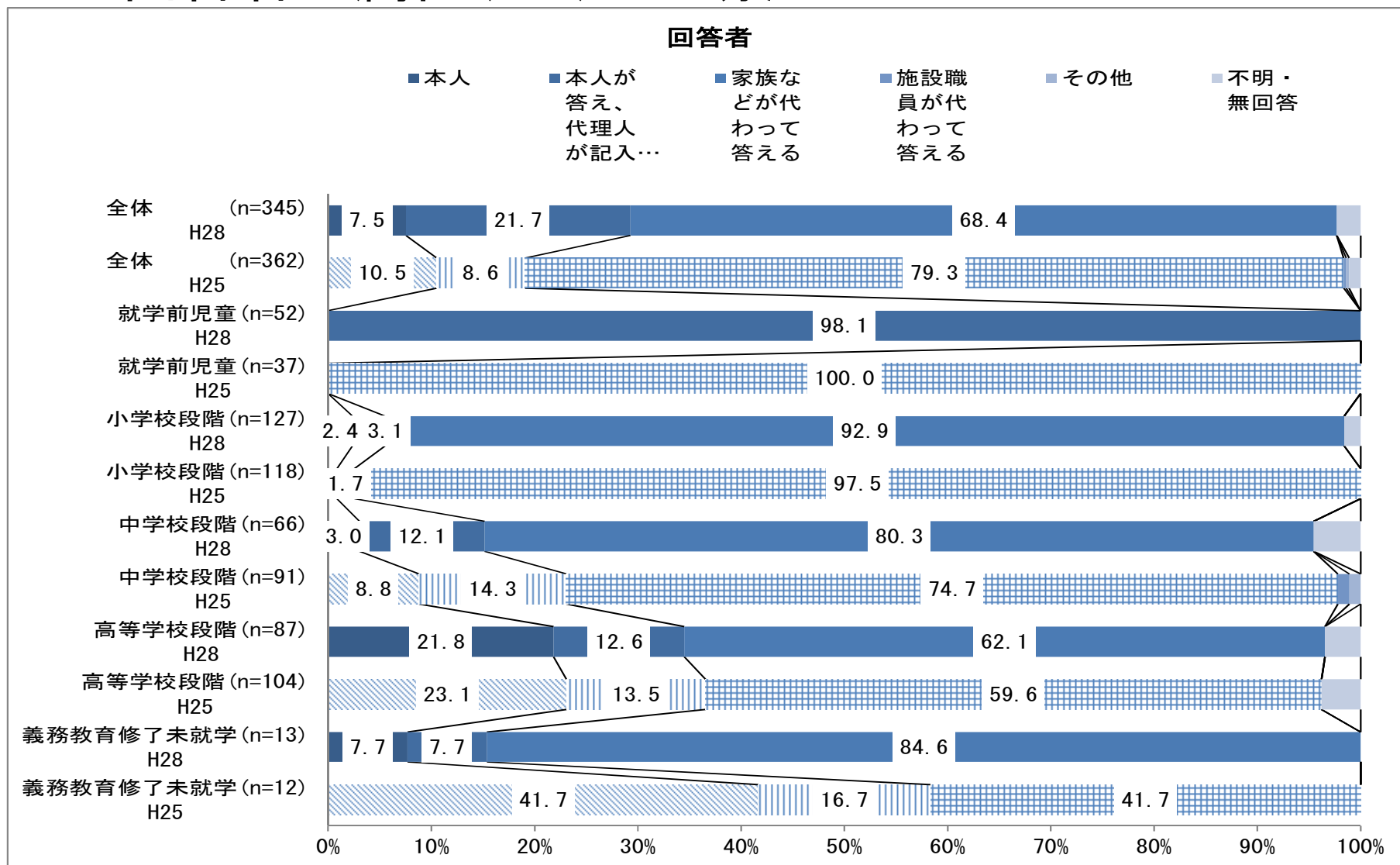
○「自分または家族の持ち家(一戸建て、分譲マンションなど)」が71.0%である。H25調査と比較すると、「グループホーム」(4.7%)は、3ポイント低い。

4.回答者の属性(2-5) E票



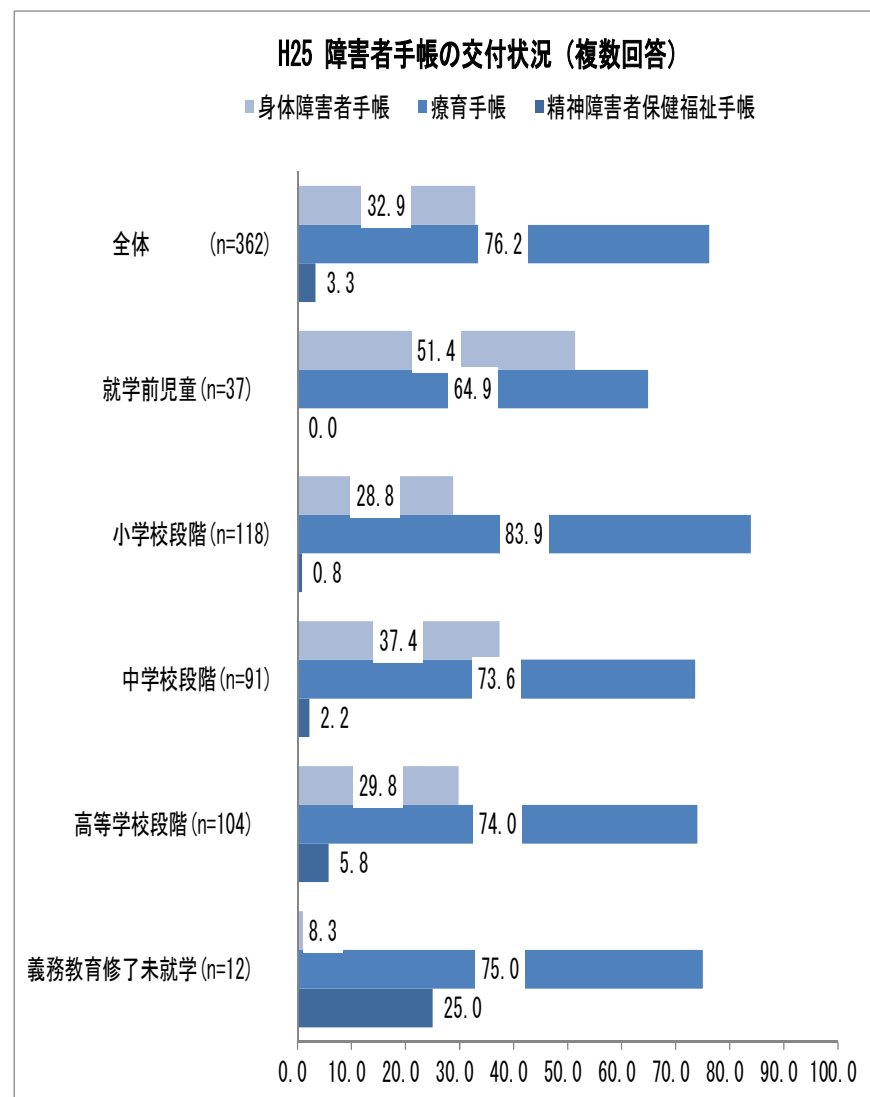
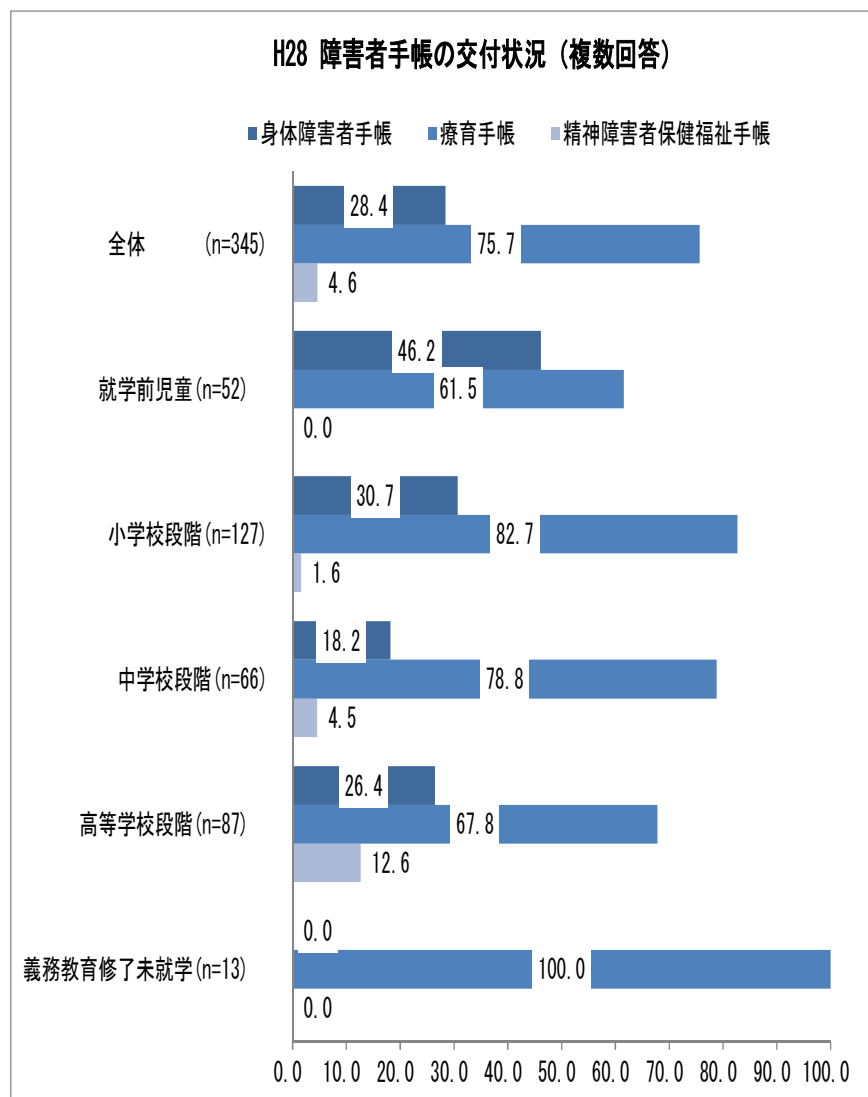
○「家族」と暮らしている人が64.2%、「自分ひとり」の人が19.1%、H25調査と比較すると、「自分ひとり」が5ポイント高い。

4.回答者の属性(3-1) F票



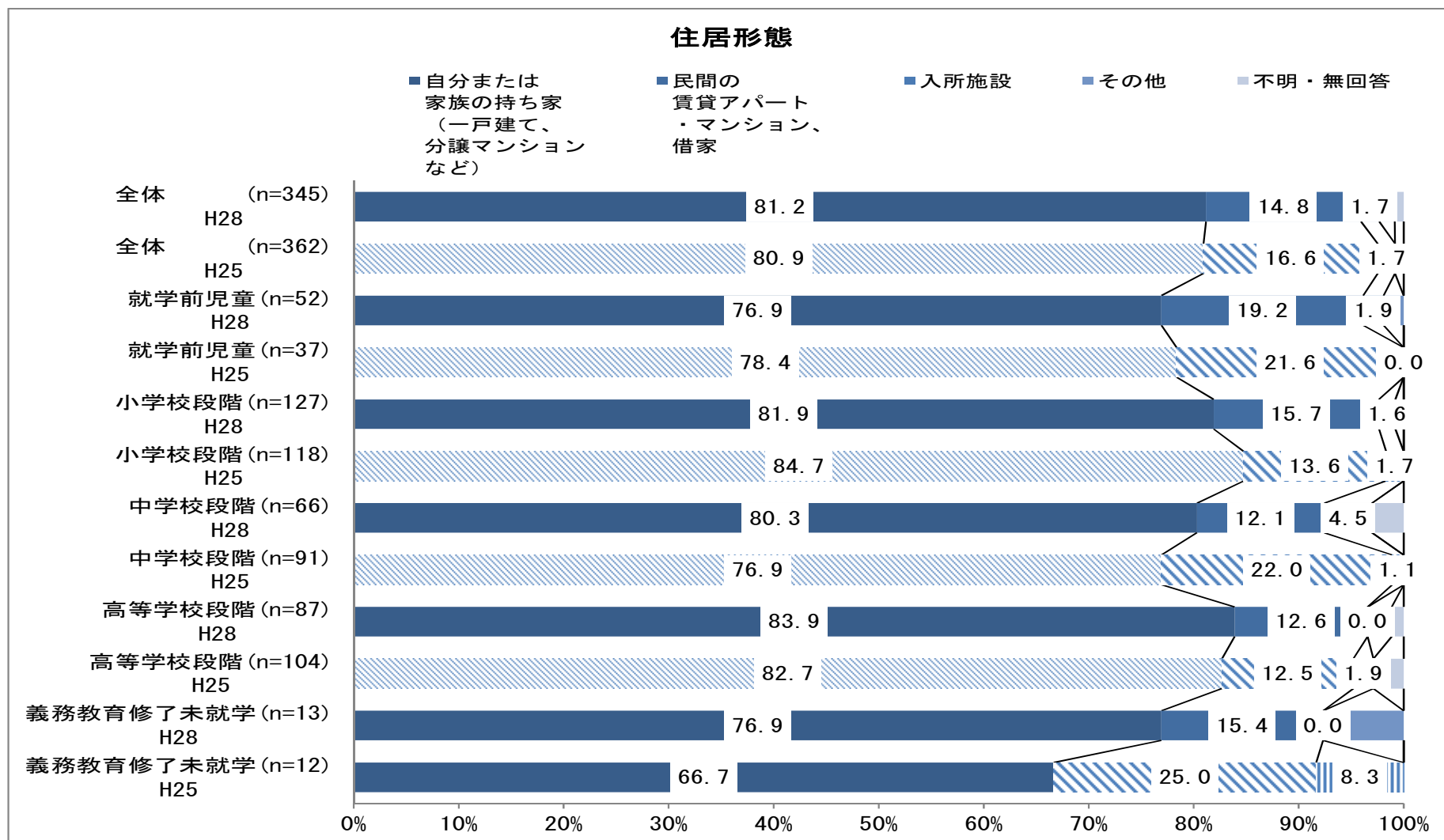
○全体では、「家族などが代わって答える」が約7割。「本人が答え、代理人が記入する」が2割。H25調査と比較すると、「家族などが代わって答える」が11ポイント低い。

4.回答者の属性(3-2) F票



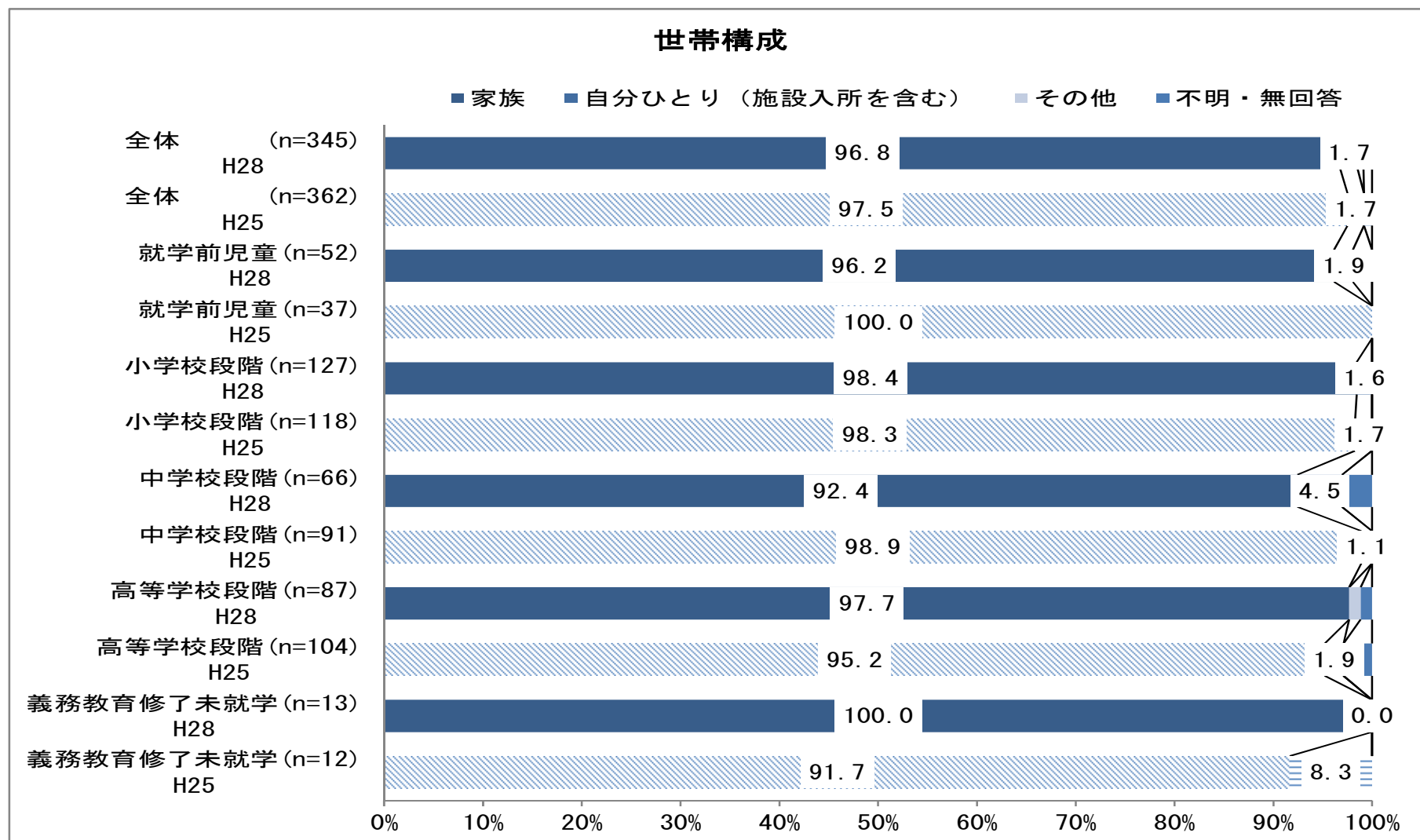
○全体では、「療育手帳」が75.7%、「身体障害者手帳」が28.4%である。H25調査と比較すると、中学校段階の「身体障害者手帳」が19ポイント低い。

4.回答者の属性(3-3) F票



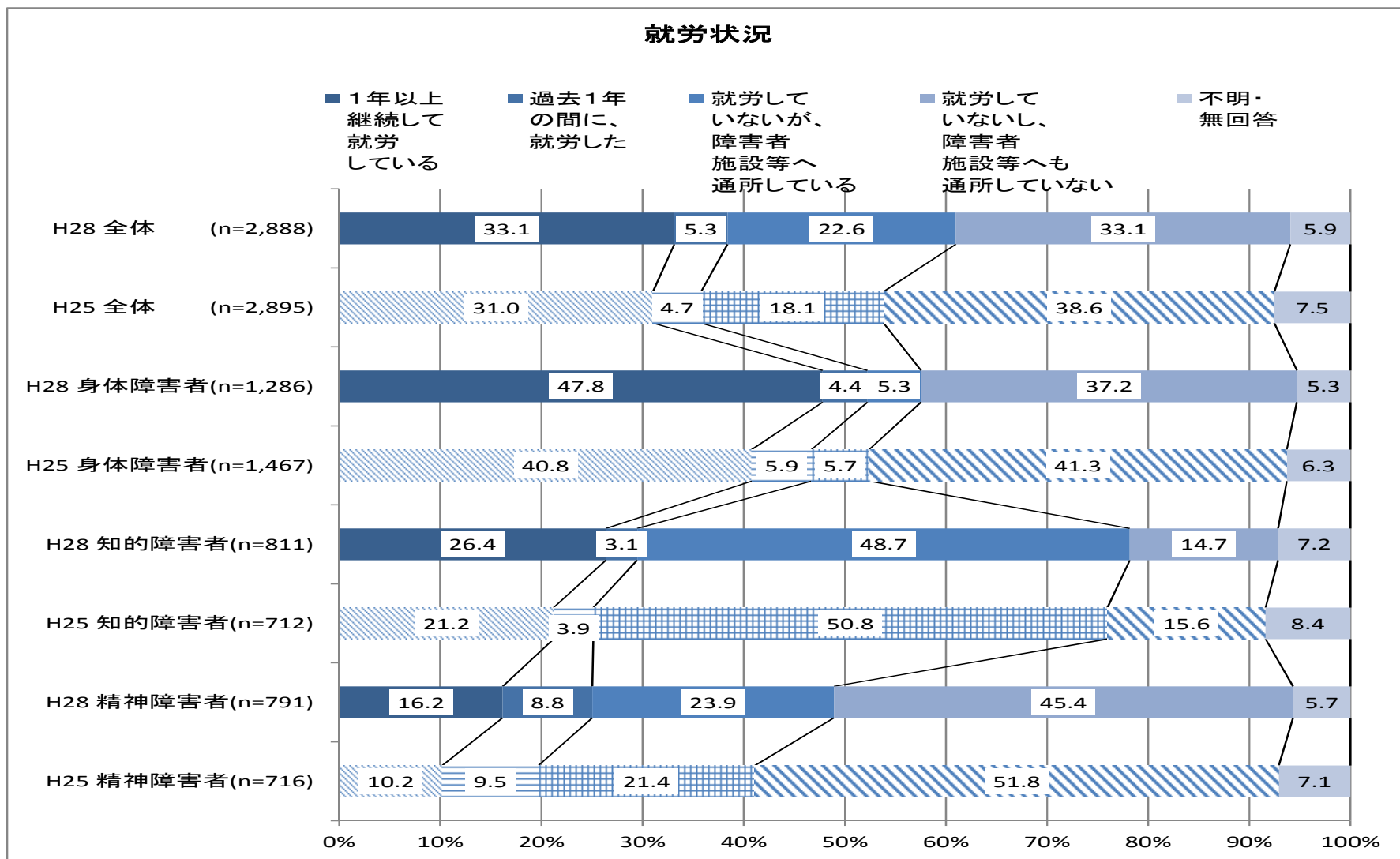
○全体では、「自分または家族の持ち家(一戸建て、分譲マンションなど)」(81.2%)と「民間の賃貸アパート・マンション、借家」(14.8%)で、96%である。H25調査と比較すると、義務教育修了未就学が10ポイント高い。

4.回答者の属性(3-4) F票



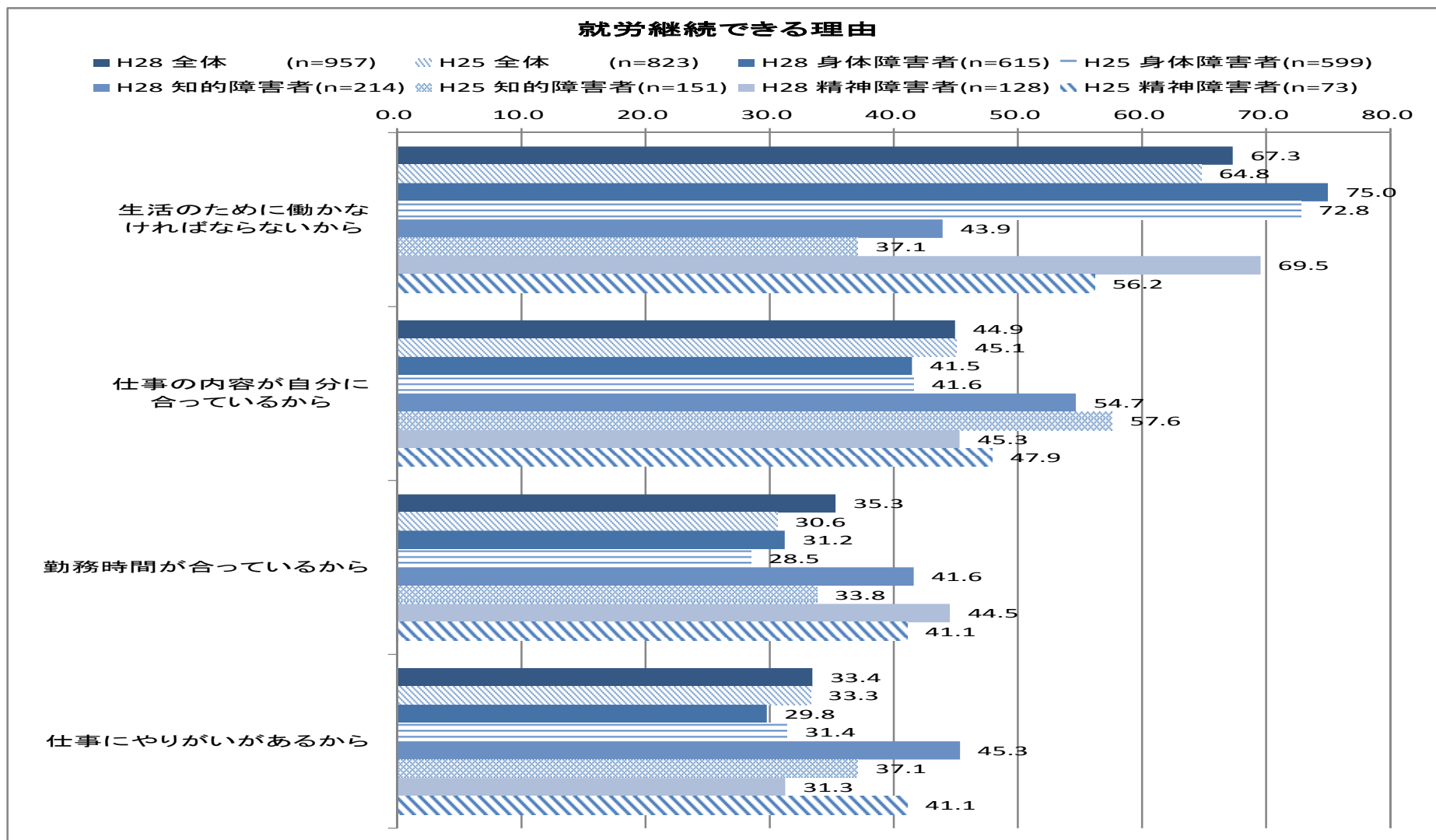
○全体では、「家族」と暮らしている人が96.8%、「自分ひとり」の人が1.7%、H25調査と比較すると、義務教育修了未就学が9ポイント高い。

5.調査結果(1-1) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



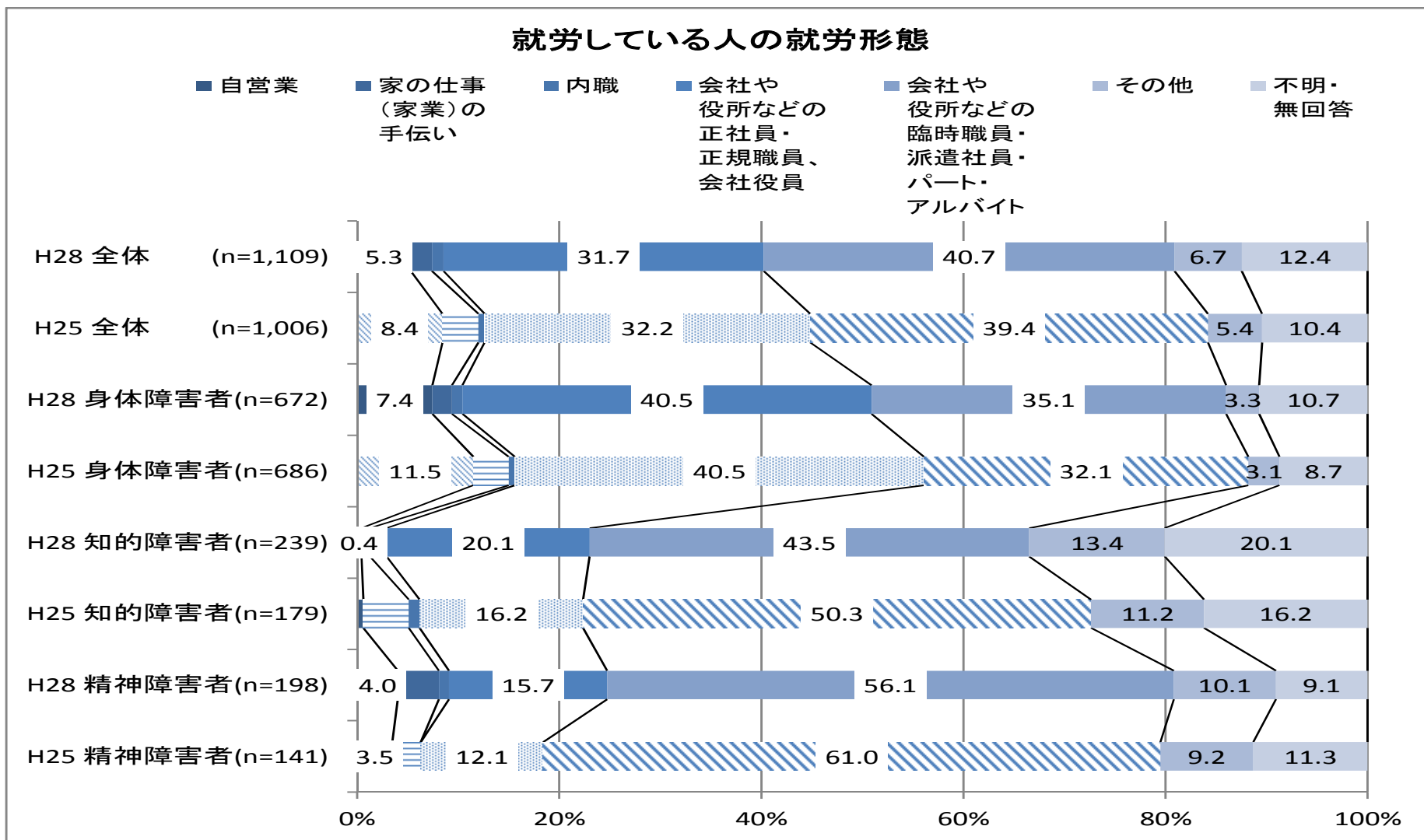
○全体では、「1年以上継続して就労している」と「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」がともに33.1%である。H25調査と比較すると、「1年以上継続して就労している」では、身体障害者が7ポイント、精神障害者が6ポイント、知的障害者が5ポイント高い。

5.調査結果(1-2) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



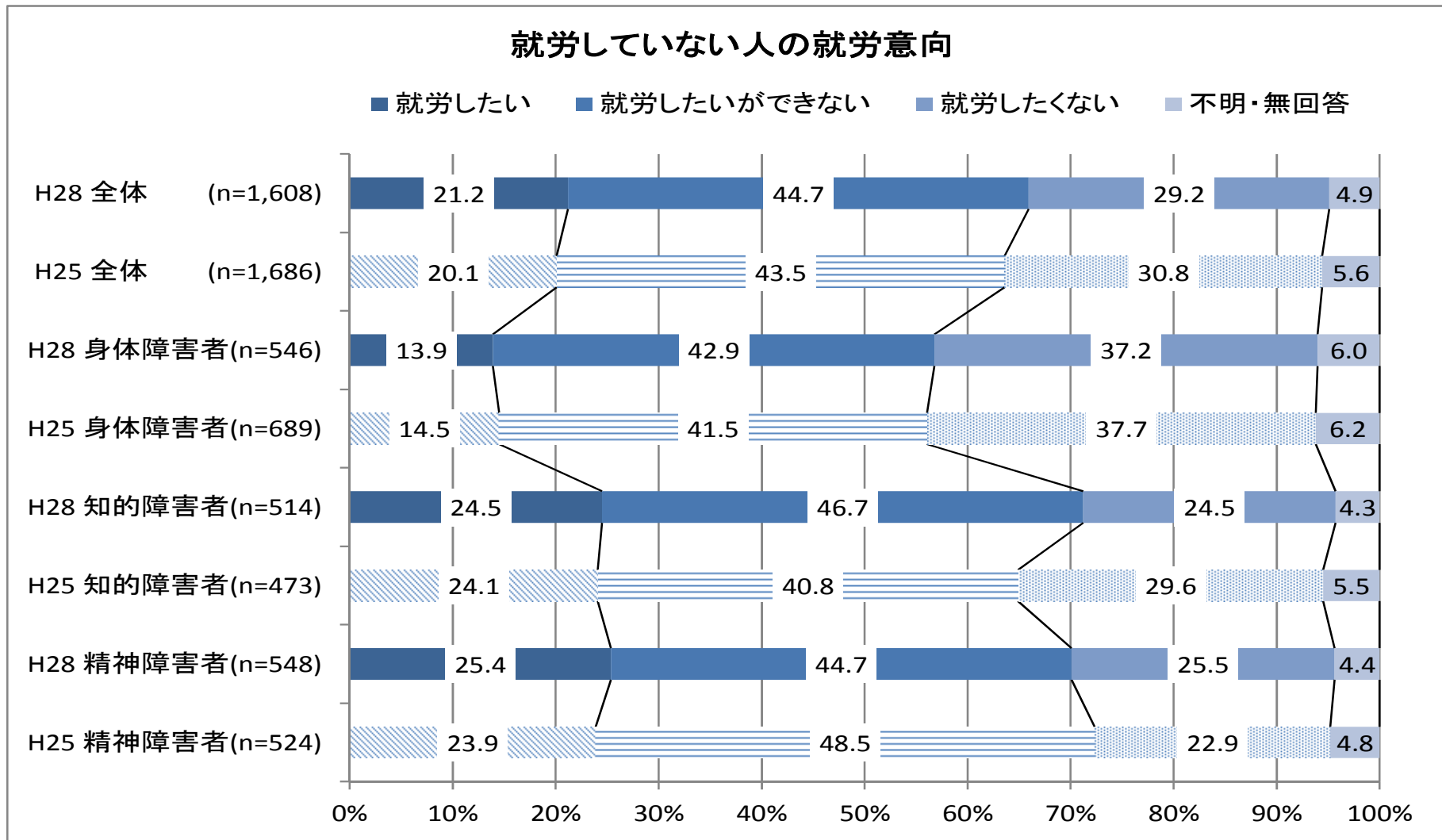
○全体では、「生活のために働かなければならないから」が67.3%と最も高い。身体障害者(75.0%)、精神障害者(69.5%)である。H25調査と比較すると、精神障害者が13ポイント高い。知的障害者は「仕事の内容が自分に合っているから」が54.7%である。

5.調査結果(1-3) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



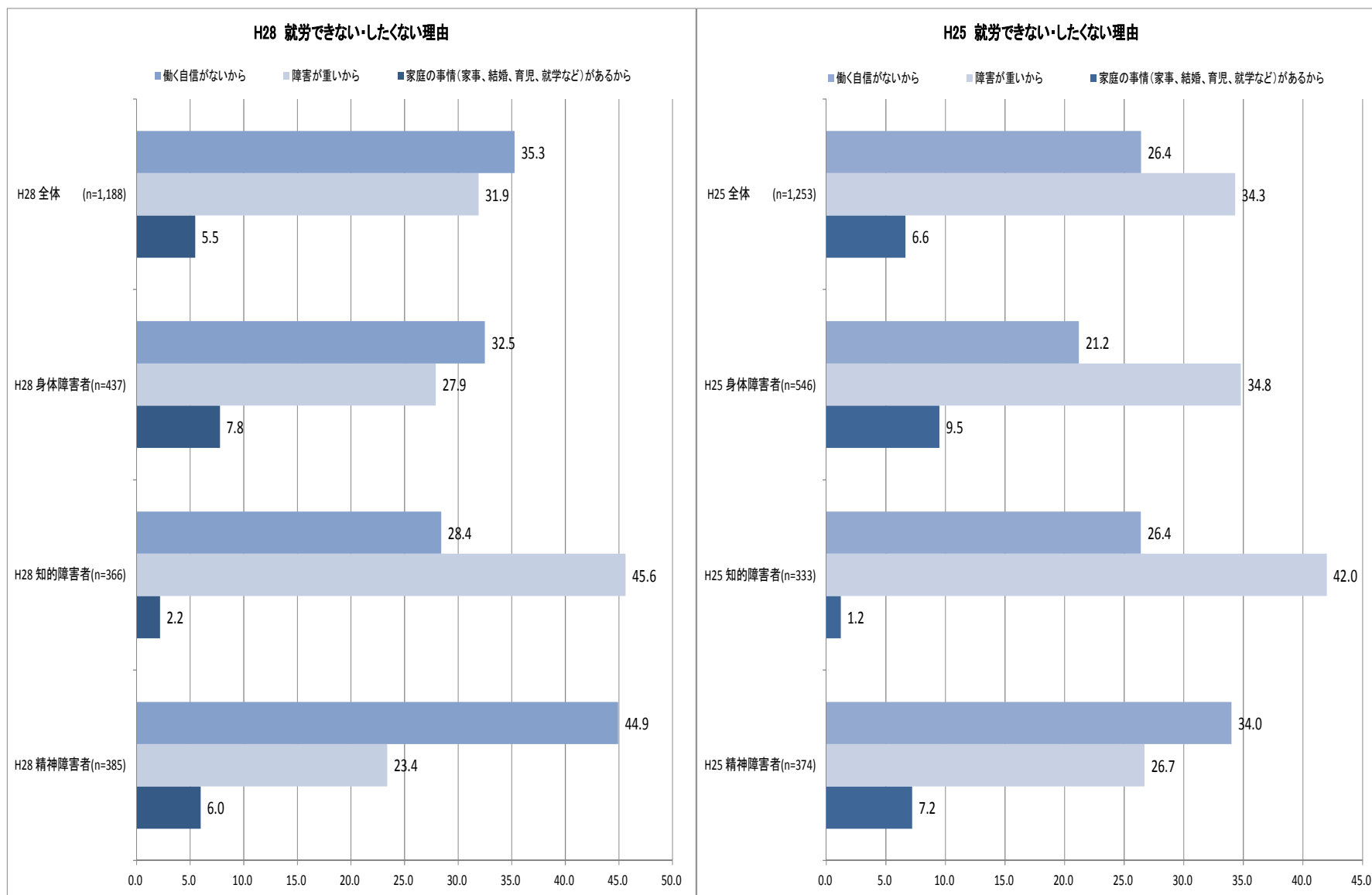
○全体では、H25調査と概ね変化はない。H25調査と比較すると、知的障害者と精神障害者では「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」が4ポイント高く、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が5ポイントほど低い。

5.調査結果(1-4) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



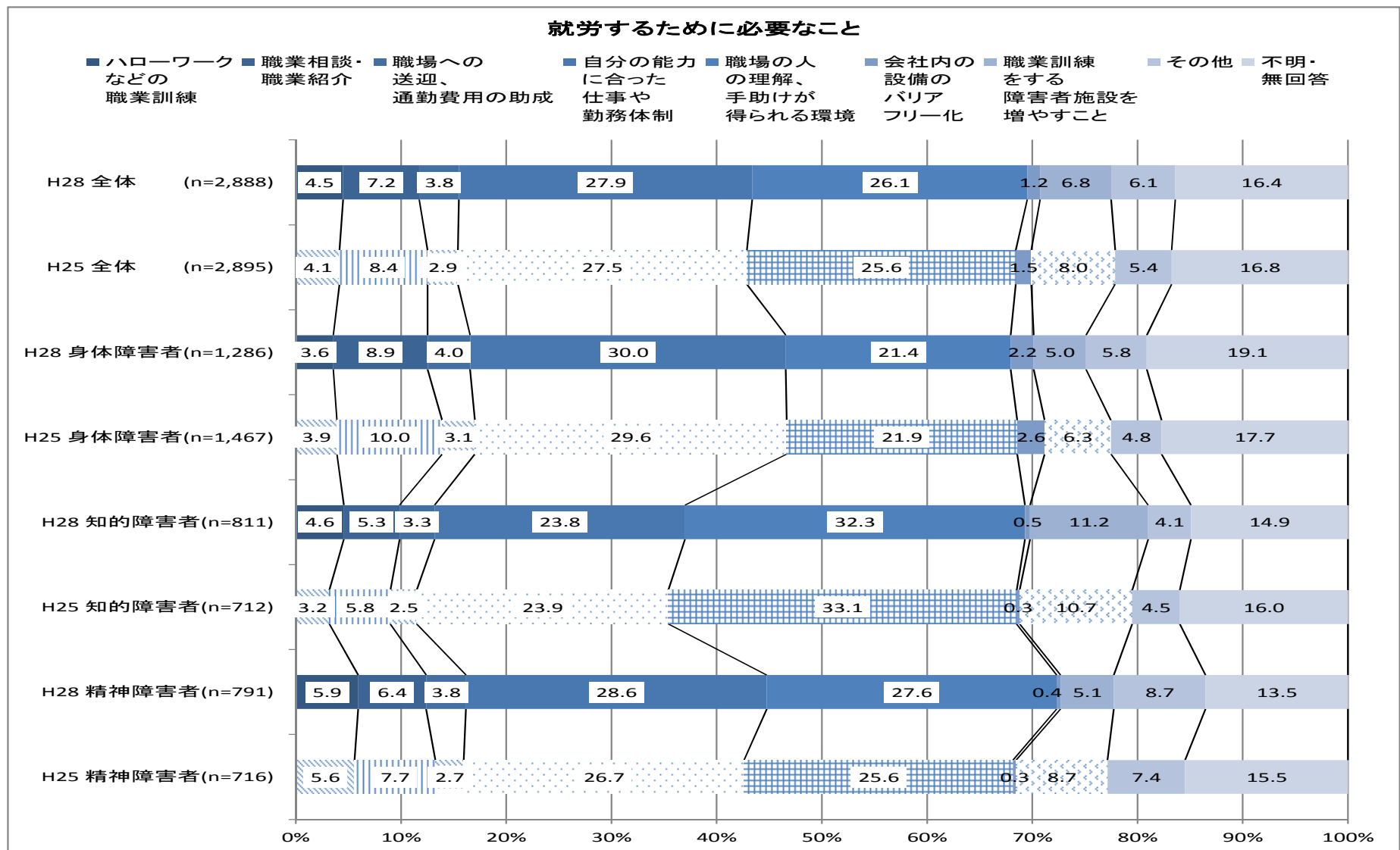
○全体では、H25調査と概ね変化はない。身体障害者では、「就労したくない」が37.2%と高い。「就労したいができない」では、H25調査と比較すると知的障害者が6ポイント高い。

5.調査結果(1-5) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



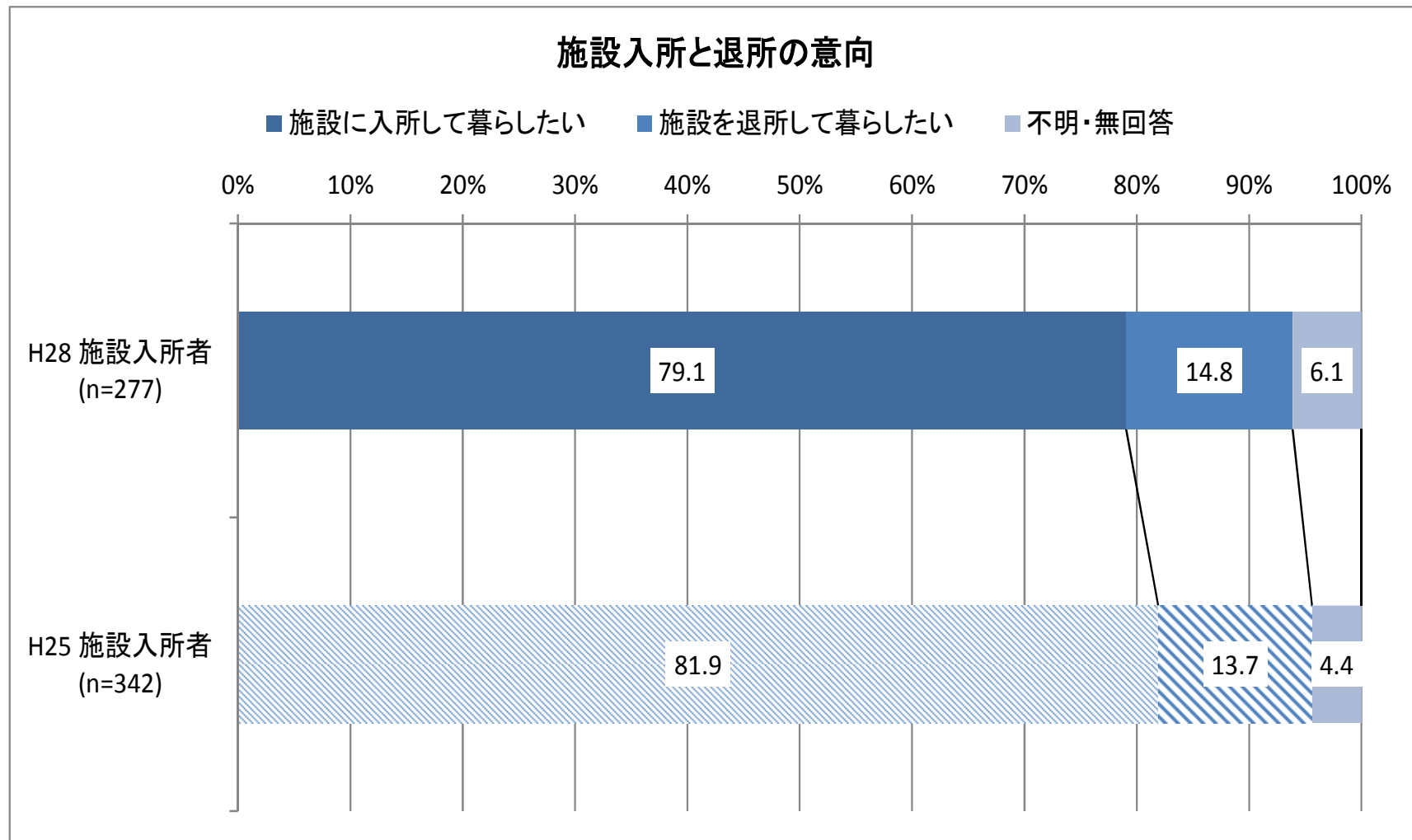
○全体では、「働く自信がないから」(35.3%)と「障害が重いから」(31.9%)で7割弱である。H25調査と比較すると、「働く自信がないから」が9ポイント高く、「障害が重いから」が2ポイント低い。

5.調査結果(1-6) A票・B票・C票(就労状況と就労意向)



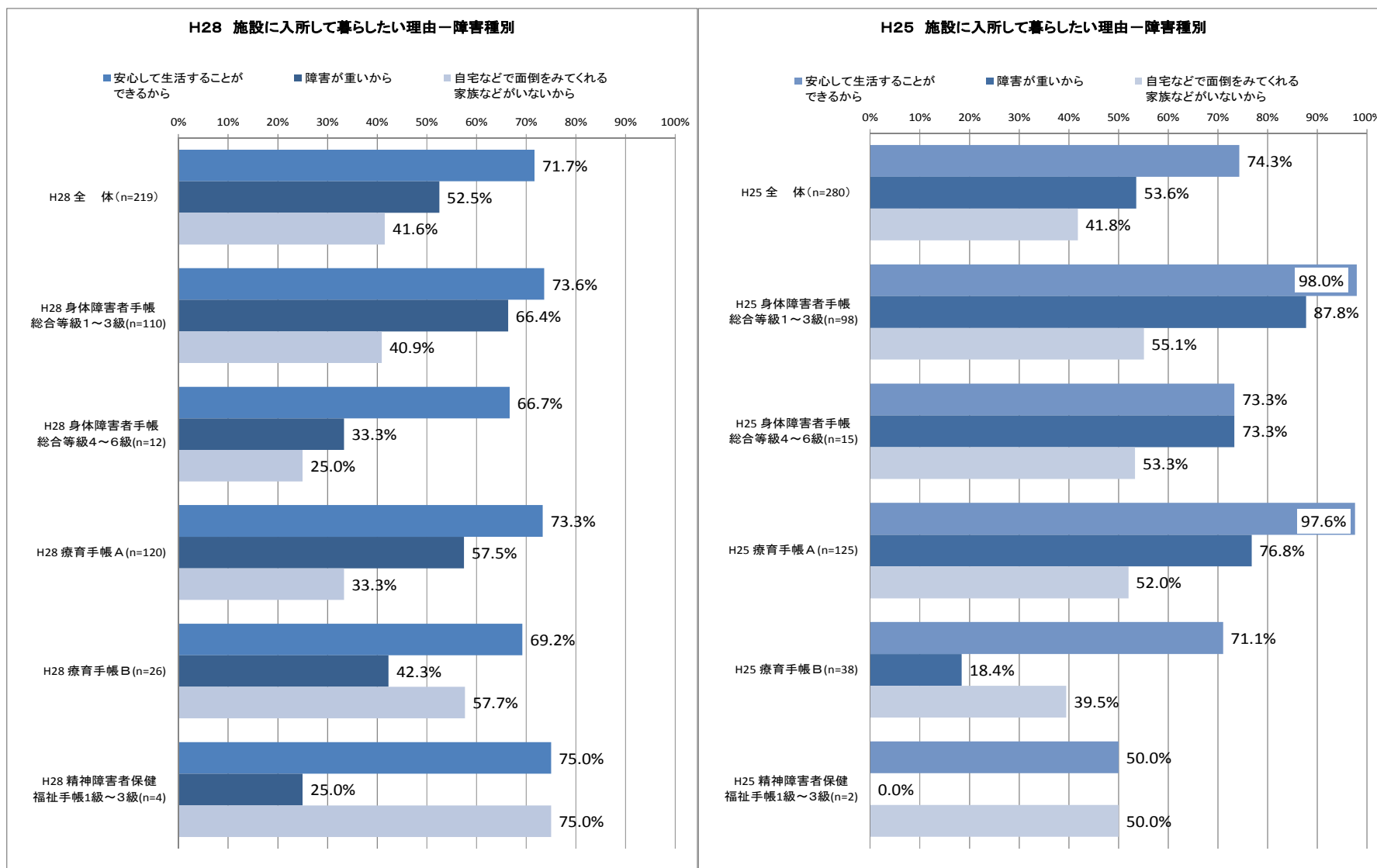
○全体では、H25調査と概ね変化はない。「自分の能力に合った仕事や勤務体制」(27.9%)、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」(26.1%)である。

5.調査結果(2-1) D票(地域生活移行に対する意向)



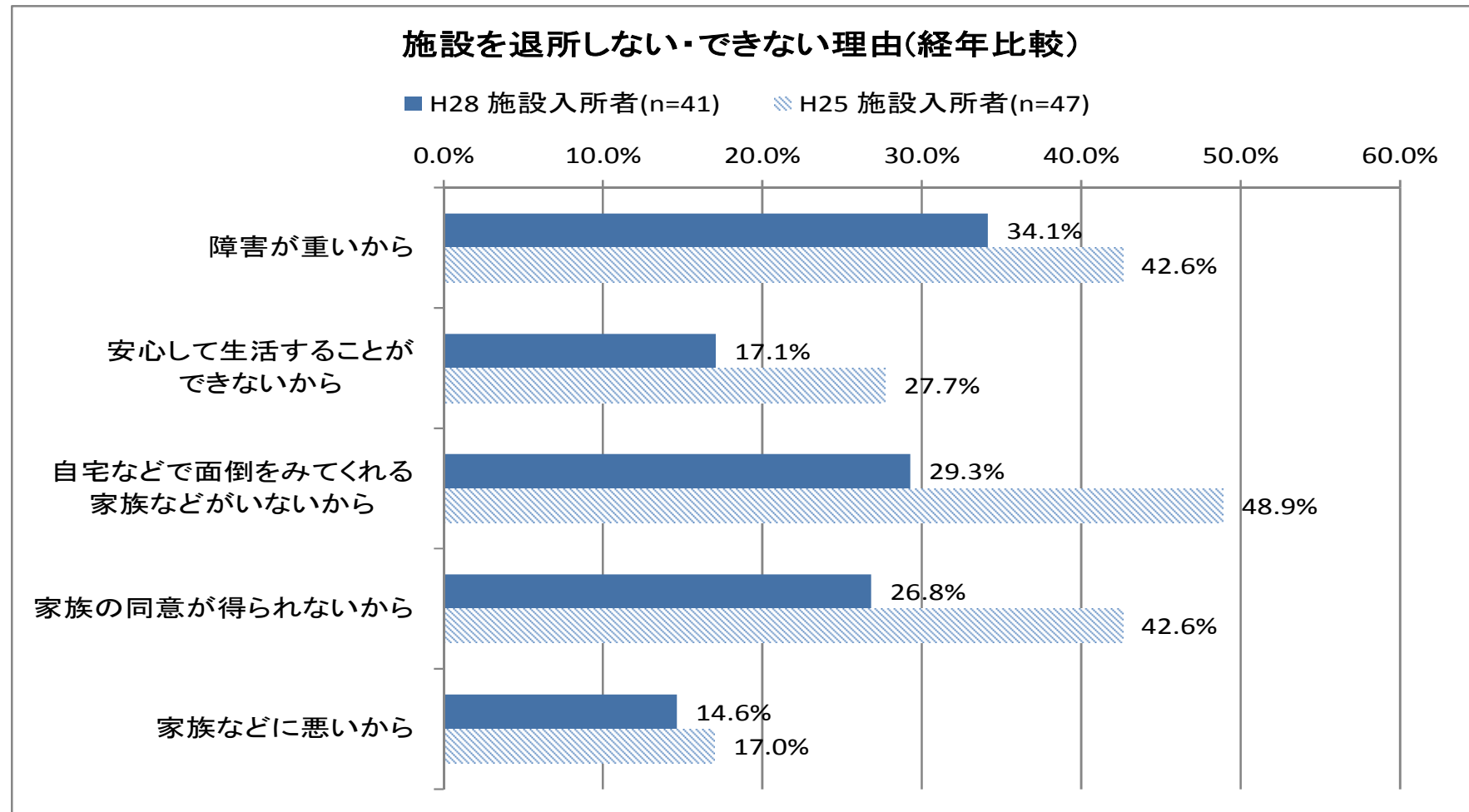
○「施設に入所して暮らしたい」が79.1%、「施設を退所して暮らしたい」が14.8%である。H25調査と比較すると、「施設に入所して暮らしたい」が3ポイント低い。

5.調査結果(2-2) D票(地域生活移行に対する意向)



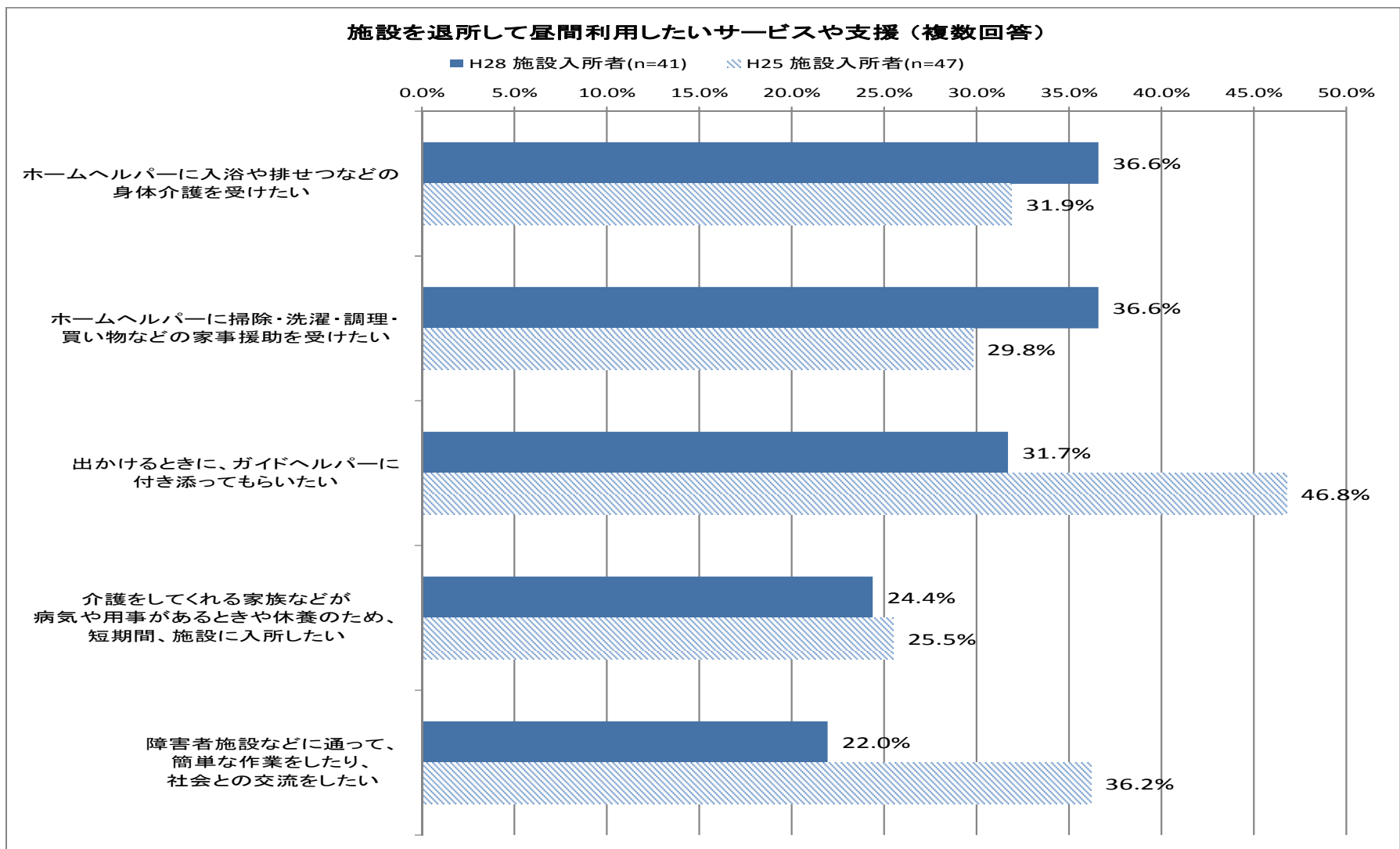
○全体ではH25調査と変化は少ない。障害種別で見ると、身体障害1～3級と療育手帳Aで「安心して生活することができるから」、療育手帳Bで「障害が重いから」が高くなっている。

5.調査結果(2-3) D票(地域生活移行に対する意向)



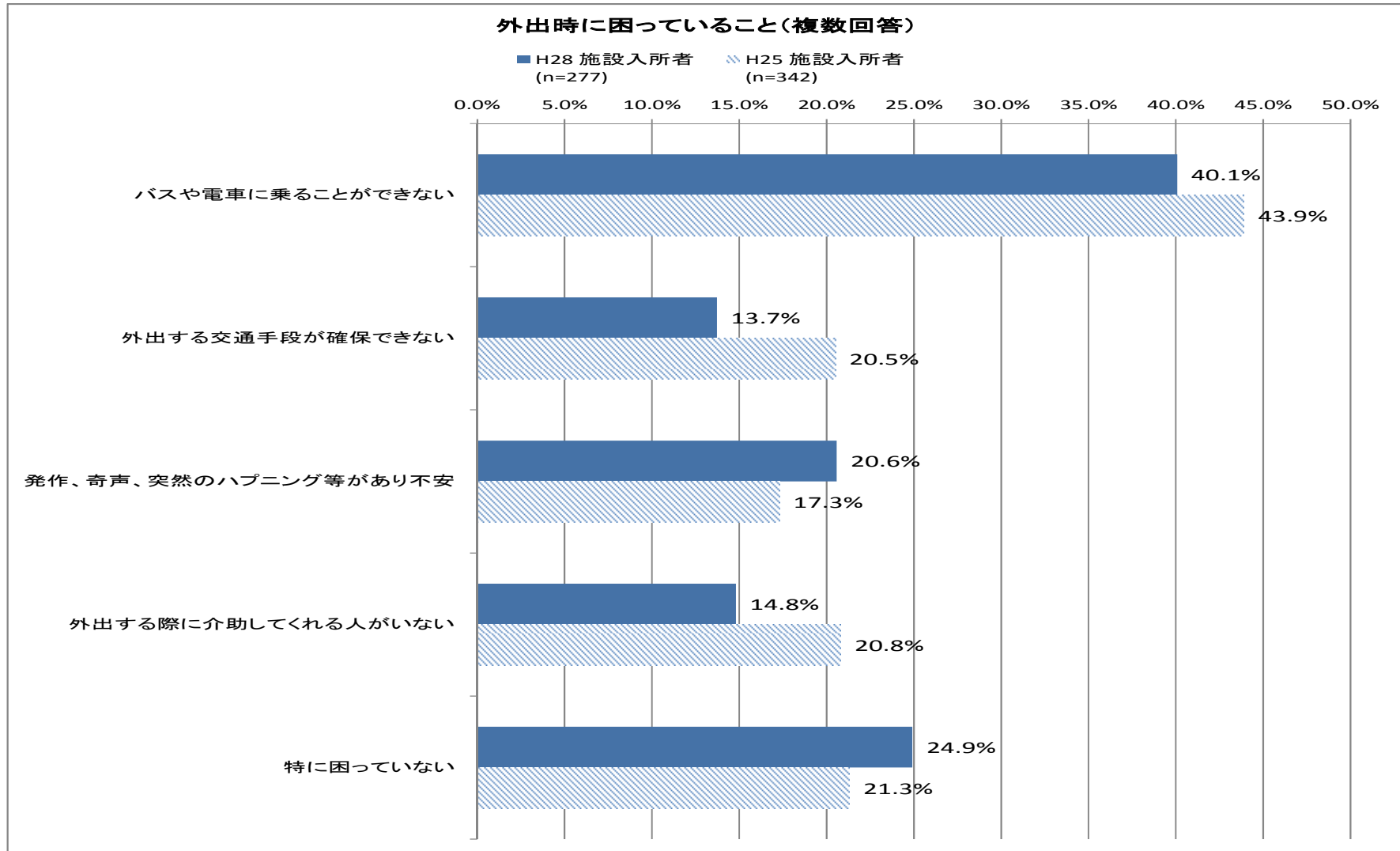
○全体では、「障害が重いから」(34.1%)と高い。H25調査と比較すると、全般的に低くなっている。特に「自宅などで面倒を見てくれる家族などがいない」が20ポイントほど、「家族の同意が得られないから」が16ポイントほど低い。

5.調査結果(2-4) D票(地域生活移行に対する意向)



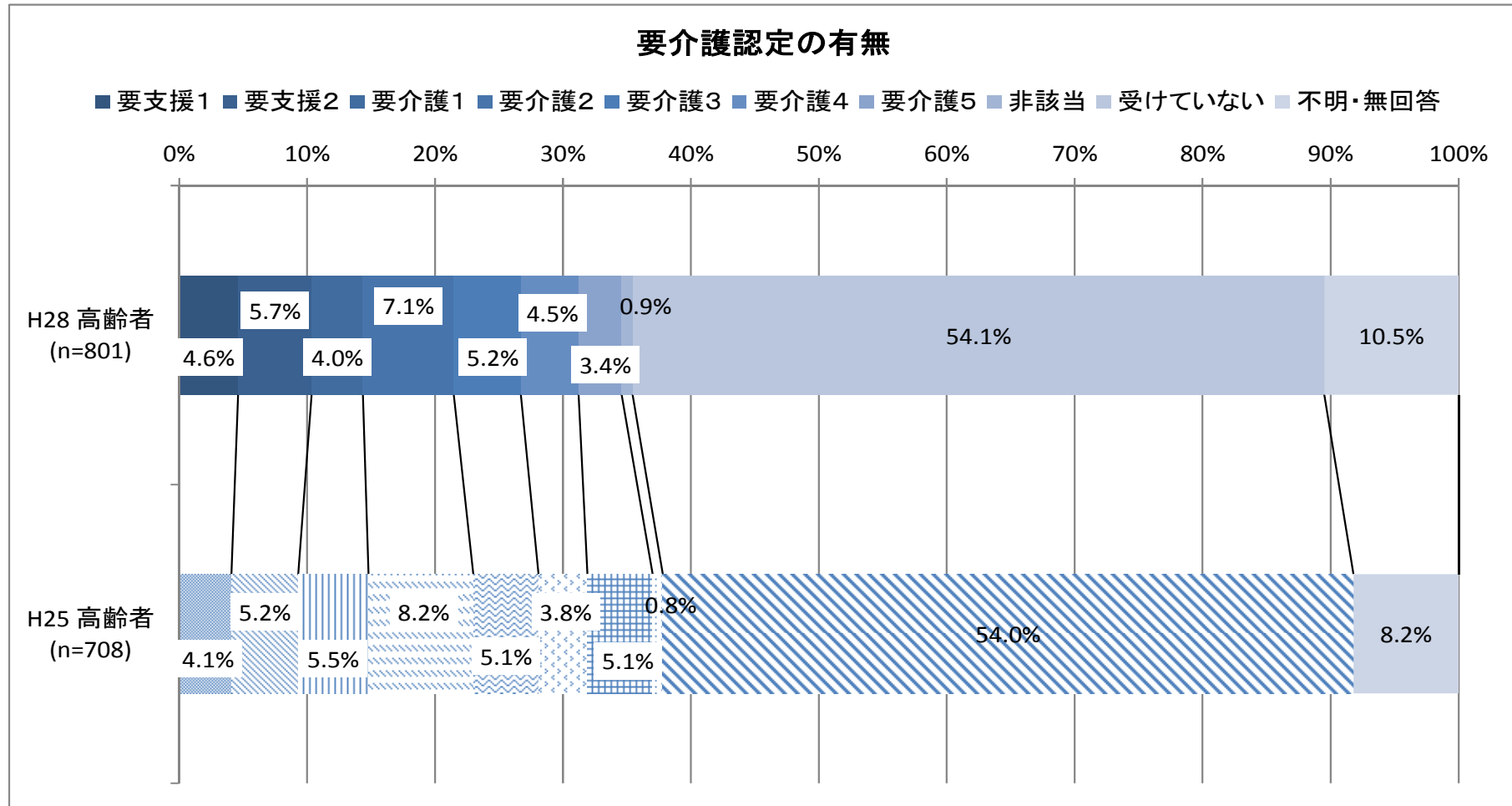
○多かった回答は、「ホームヘルパーの介護や援助」(ともに36.6%)である。H25調査と比較すると、ホームヘルパーサービスは高い。一方、「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は低い。

5.調査結果(2-5) D票(地域生活移行に対する意向)



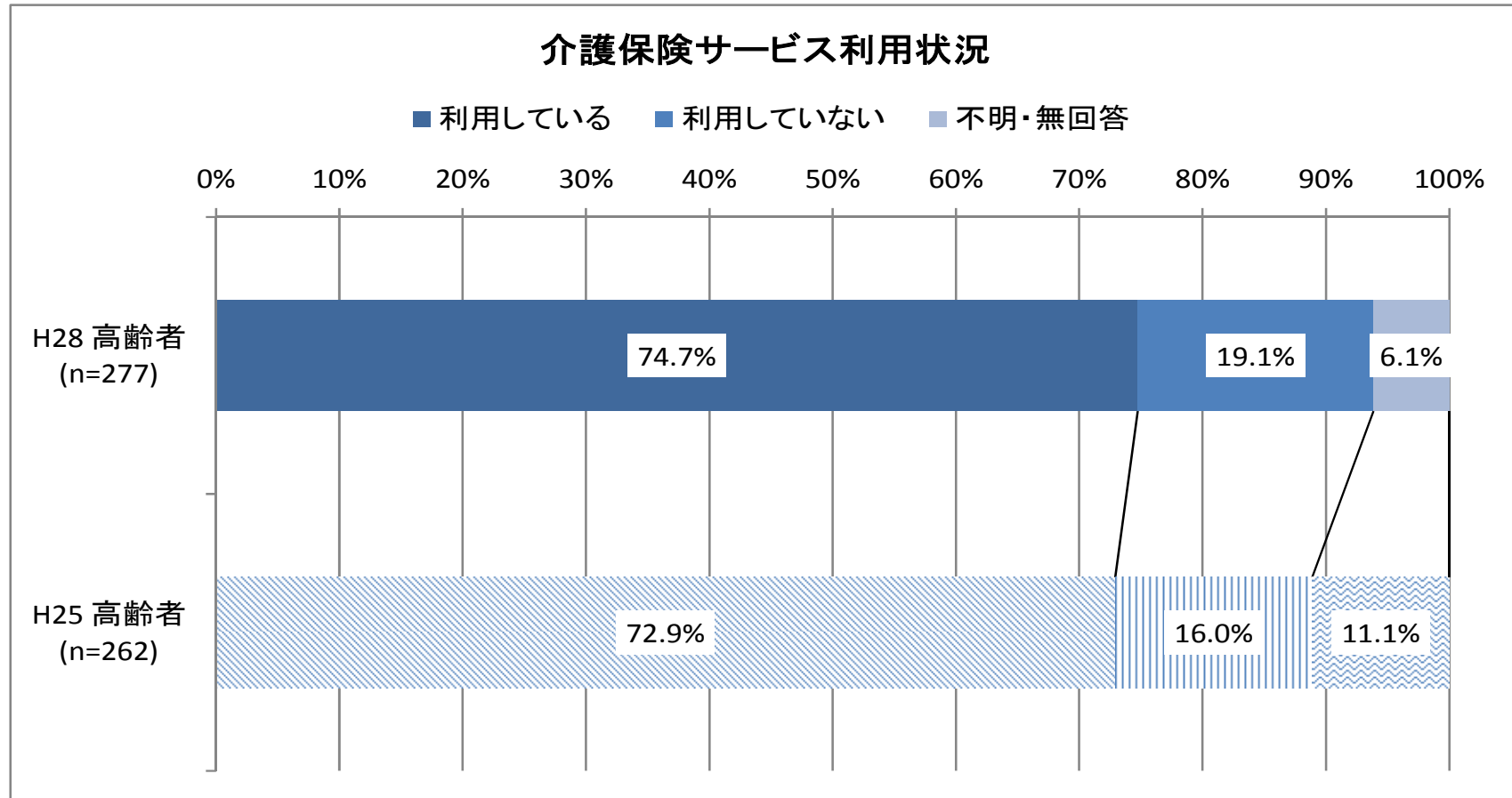
○多かった回答は、「バスや電車に乗ることができない」(40.1%)である。H25調査と比較すると、「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」が3ポイント、「特に困っていない」が4ポイントほど高い。

5.調査結果(3-1) E票(介護保険サービス利用状況)



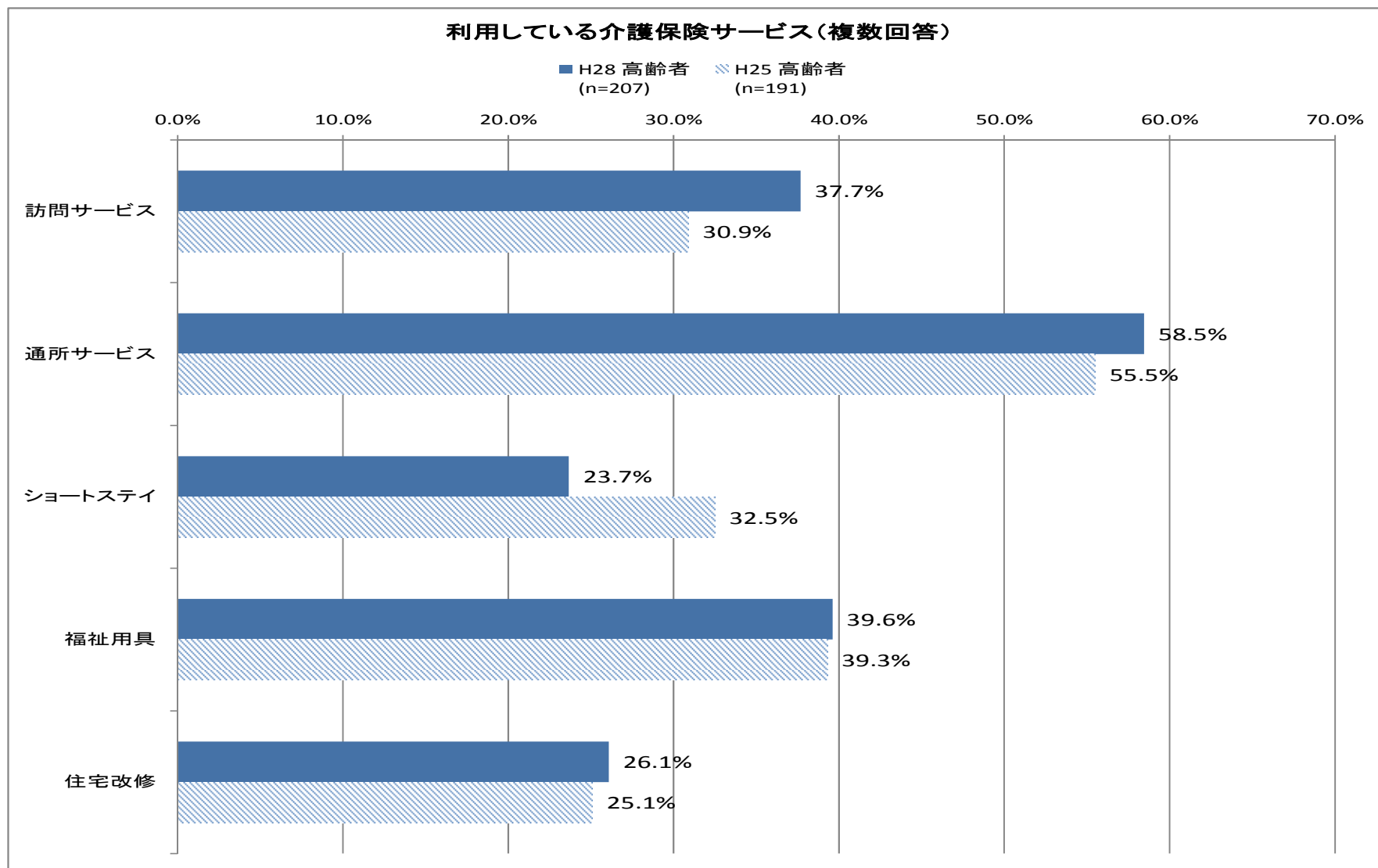
○「受けていない」が54.1%、要介護認定を受けている人の要介護度は、順に、「要介護2」(7.1%)、「要支援2」(5.7%)、「要介護3」(5.2%)と高い。H25調査と比較して差は少ない。

5.調査結果(3-2) E票(介護保険サービス利用状況)



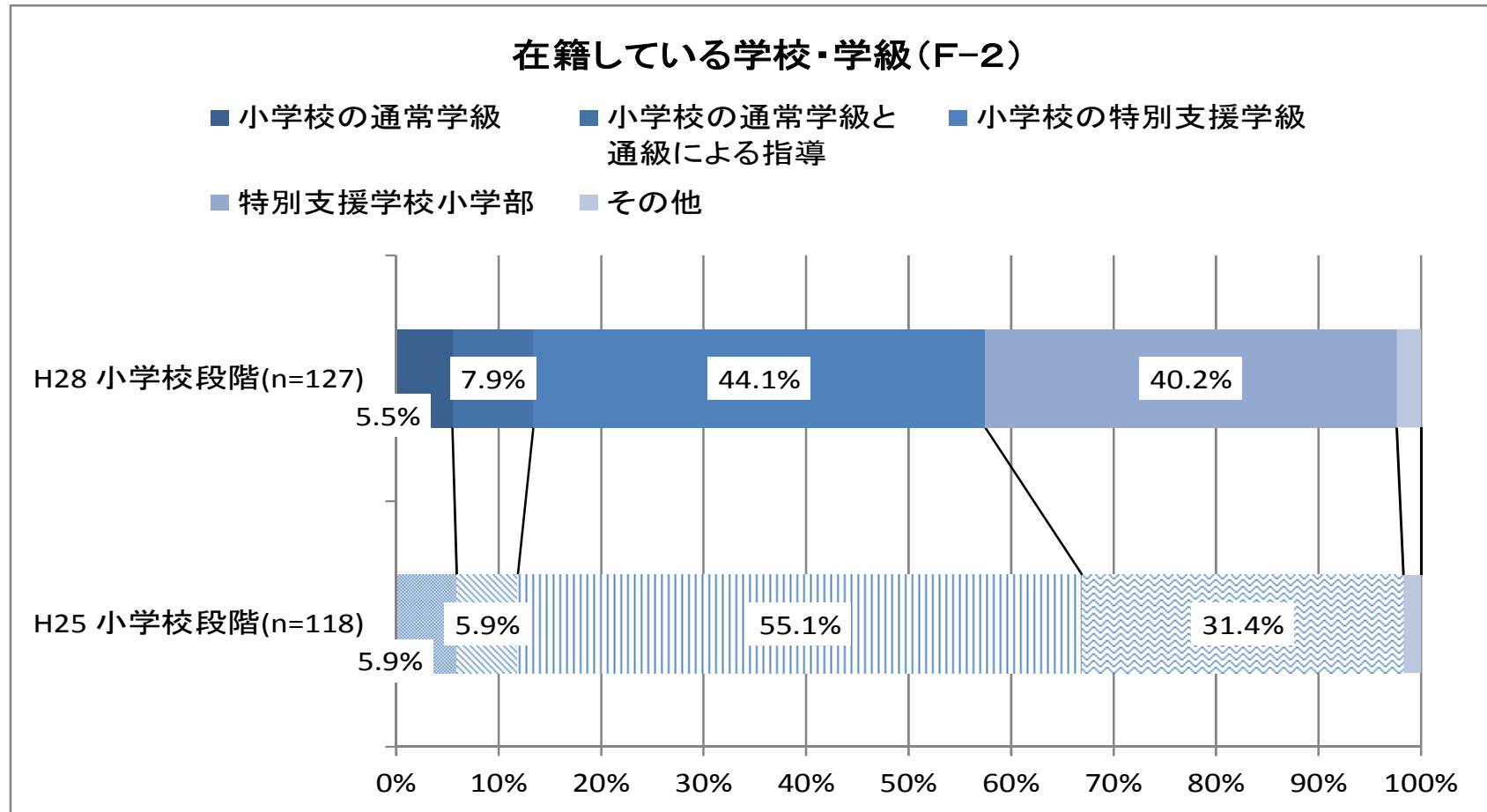
○「利用している」が74.7%である。H25調査と比較すると、「利用している」が2ポイント、「利用していない」が3ポイント高い。

5.調査結果(3-3) E票(介護保険サービス利用状況)



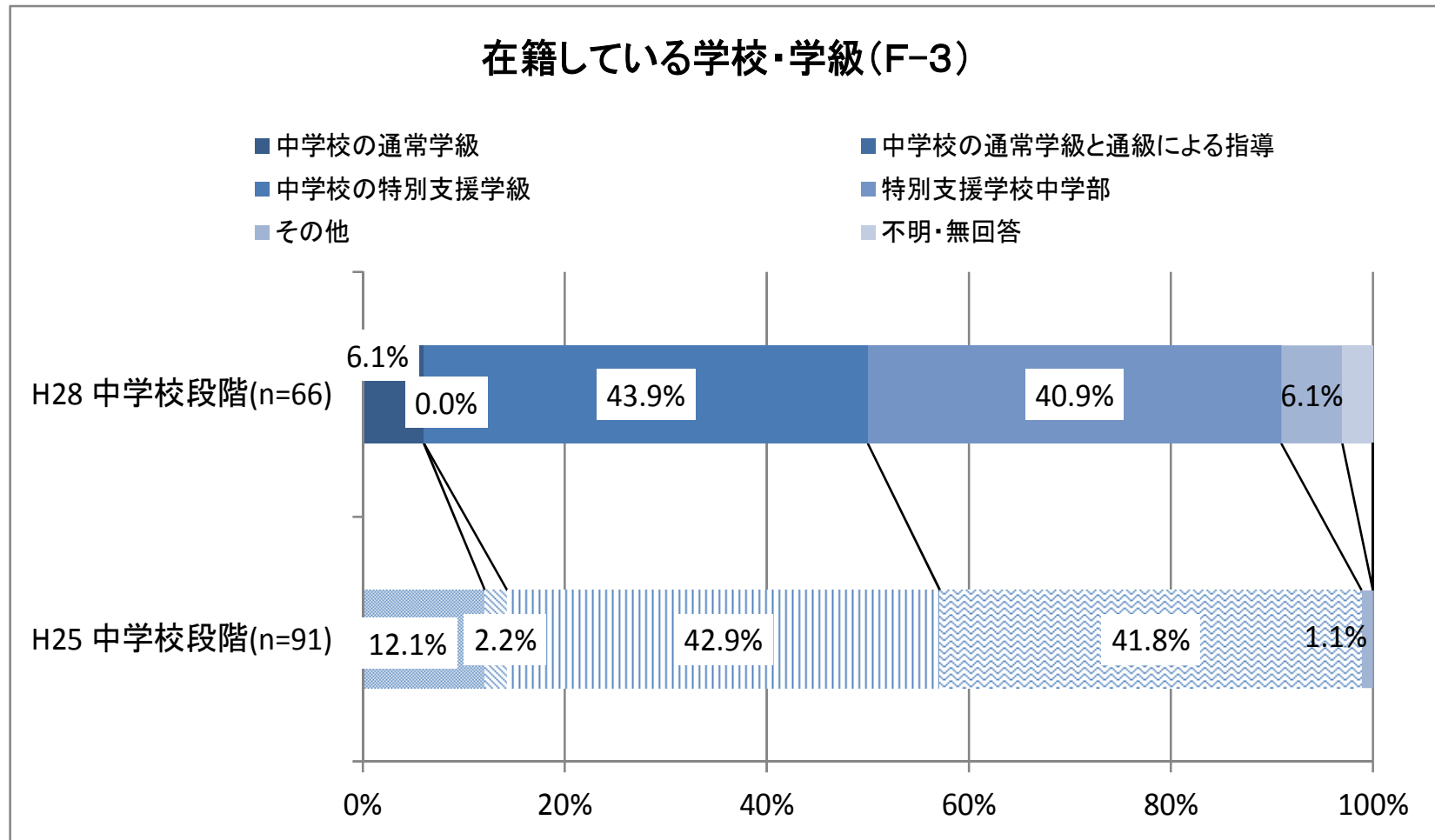
○「通所サービス」(58.5%)が最も高く、次に「福祉用具」(39.3%)である。H25調査と比較すると、「訪問サービス」が7ポイント高く、「ショートステイ」が9ポイント低い。

5.調査結果(4-1) F票(学校・サービス・就労・進路など)



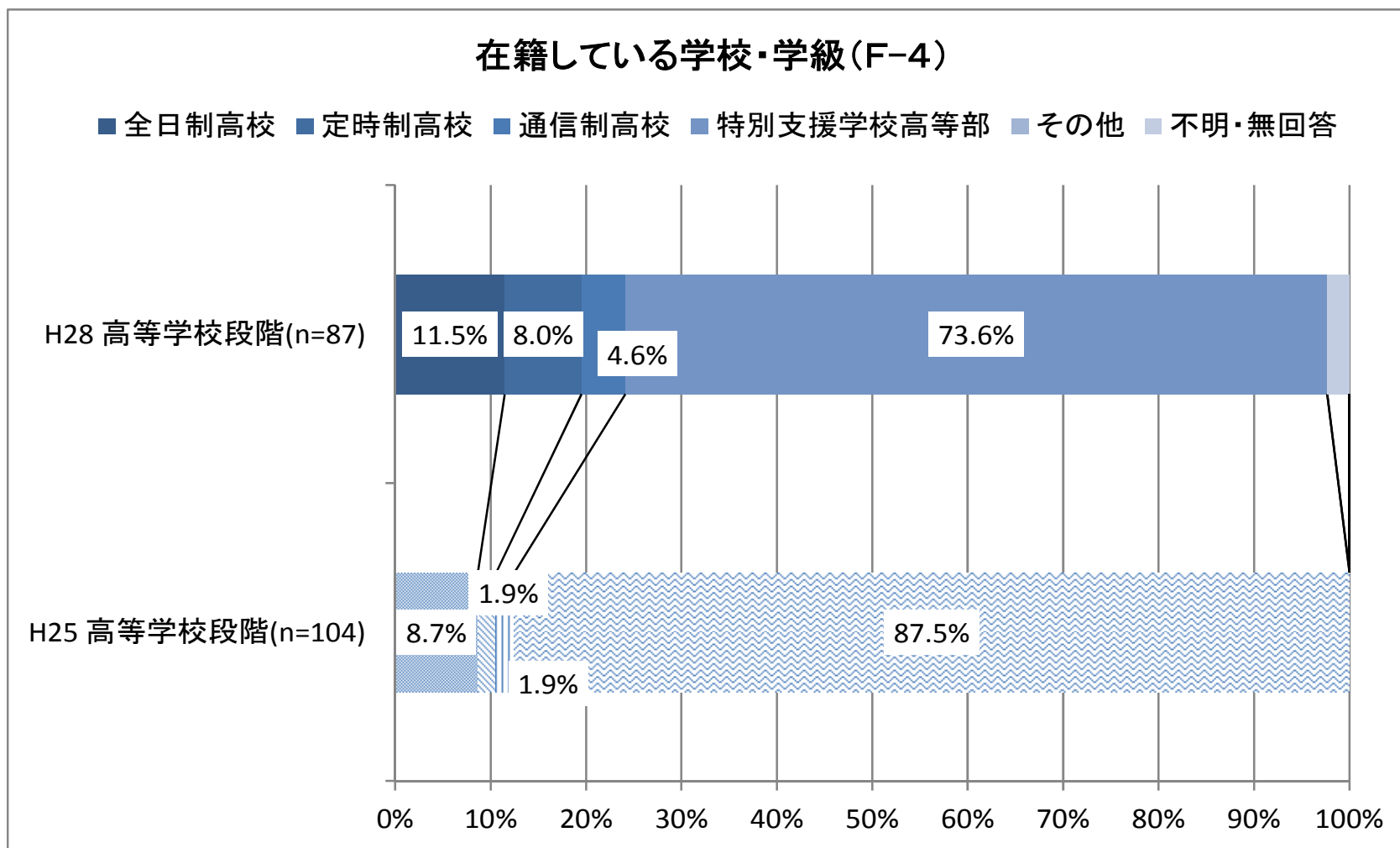
○「小学校の特別支援学級」が44.1%で最も高く、次に「特別支援学校小学部」が40.2%である。H25調査と比較すると、「特別支援学校小学部」が9ポイントほど高く、「小学校の特別支援学級」が10ポイント低い。

5.調査結果(4-2) F票(学校・サービス・就労・進路など)



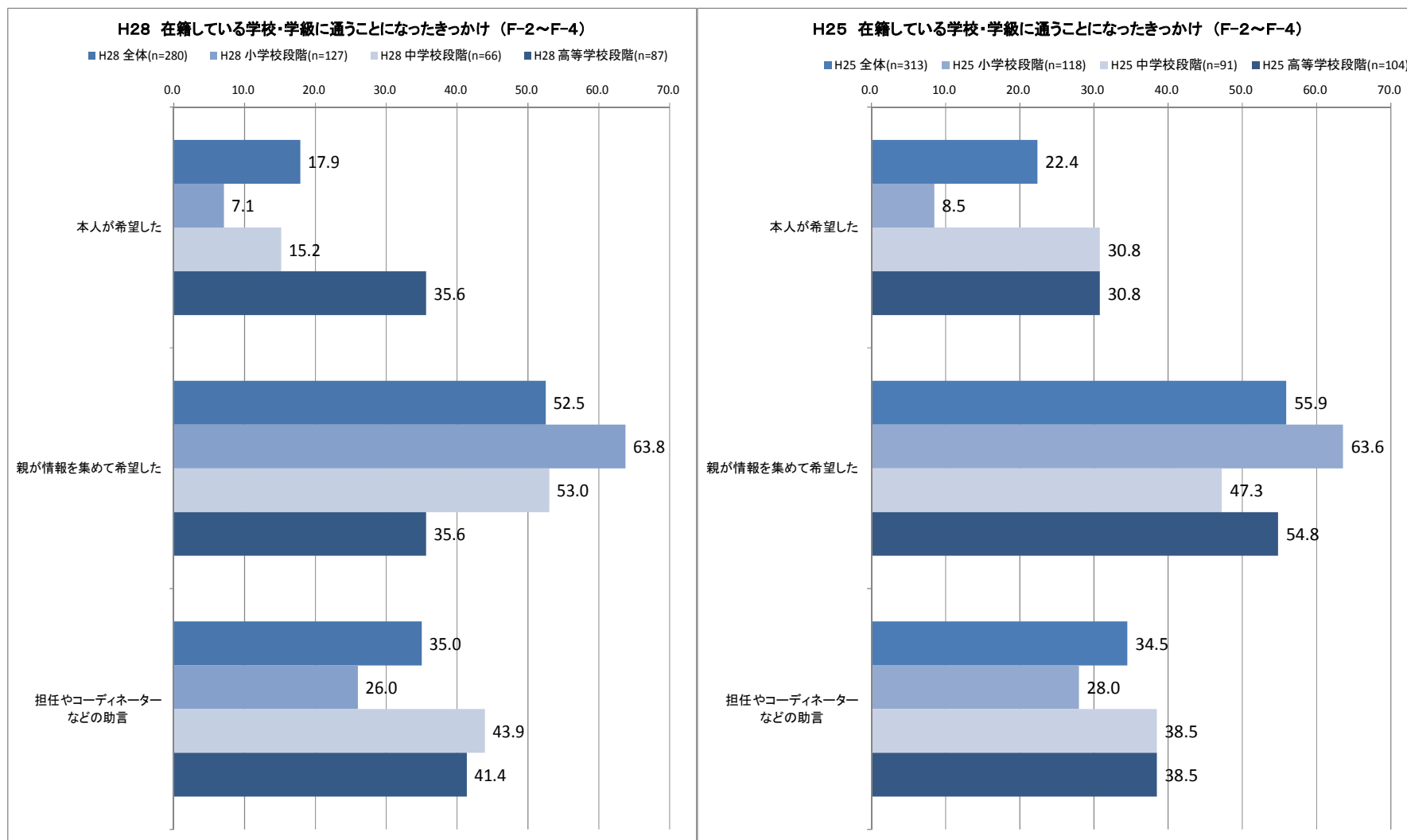
○「中学校の特別支援学級」が43.9%で最も高く、次に「特別支援学校中学部」が40.9%である。H25調査と比較すると、「中学校の特別支援学級」が1ポイントほど高く、「中学校の普通学級」が6ポイント低い。

5.調査結果(4-3) F票(学校・サービス・就労・進路など)



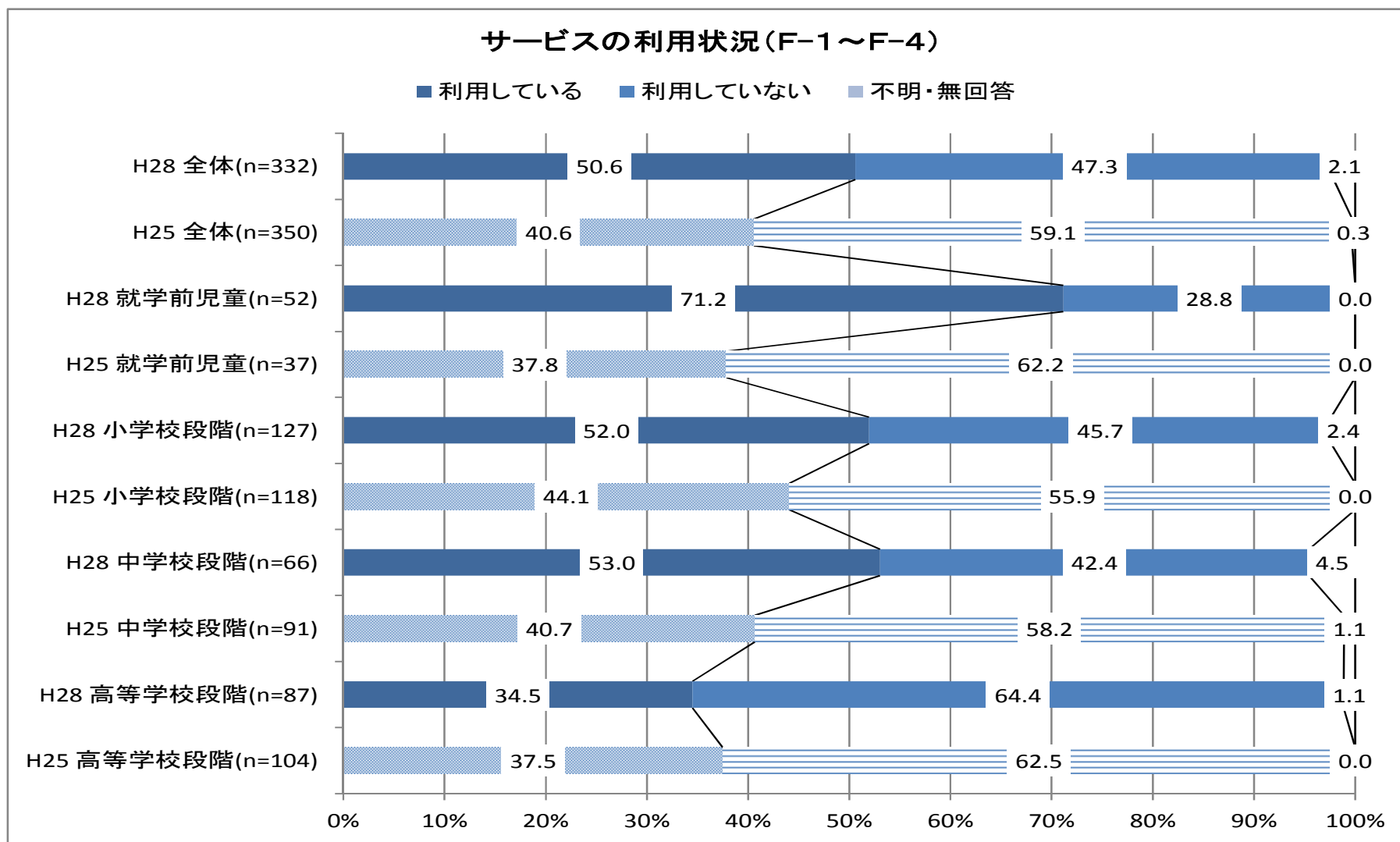
○「特別支援学校高等部」が73.6%で最も高く、次に「全日制高校」が11.5%である。H25調査と比較すると、「定時制高校」が6ポイントほど高く、「特別支援学校高等部」が14ポイントほど低い。

5.調査結果(4-4) F票(学校・サービス・就労・進路など)



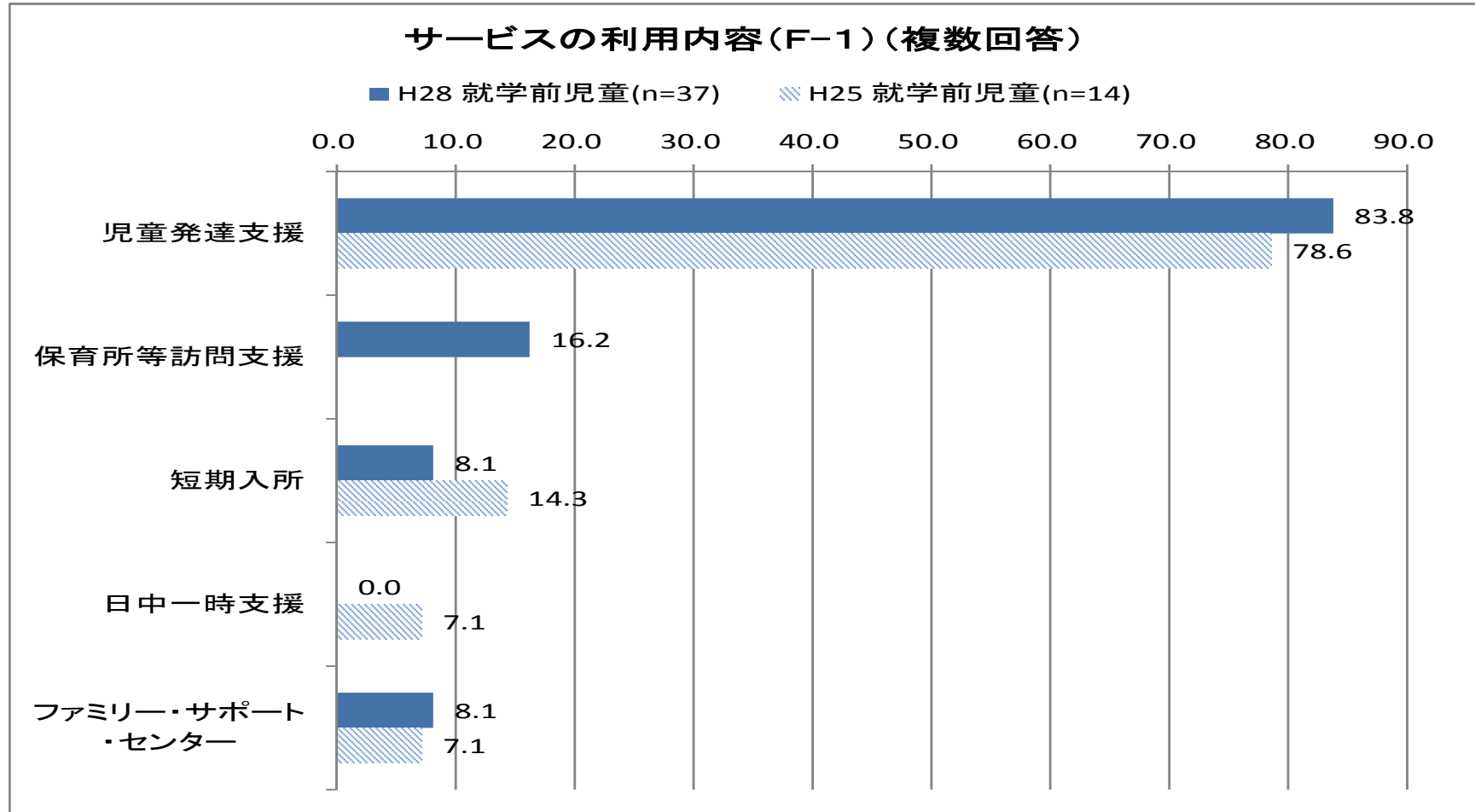
○全体では、「親が情報を集めて希望した」が52.5%で最も高く、次に「担任やコーディネーターなどの助言」が35.0%である。年齢が上がるごとに親への依存が低下している。H25調査と比較すると、「高等学校段階」が19ポイントほど低い。

5.調査結果(4-5) F票(学校・サービス・就労・進路など)



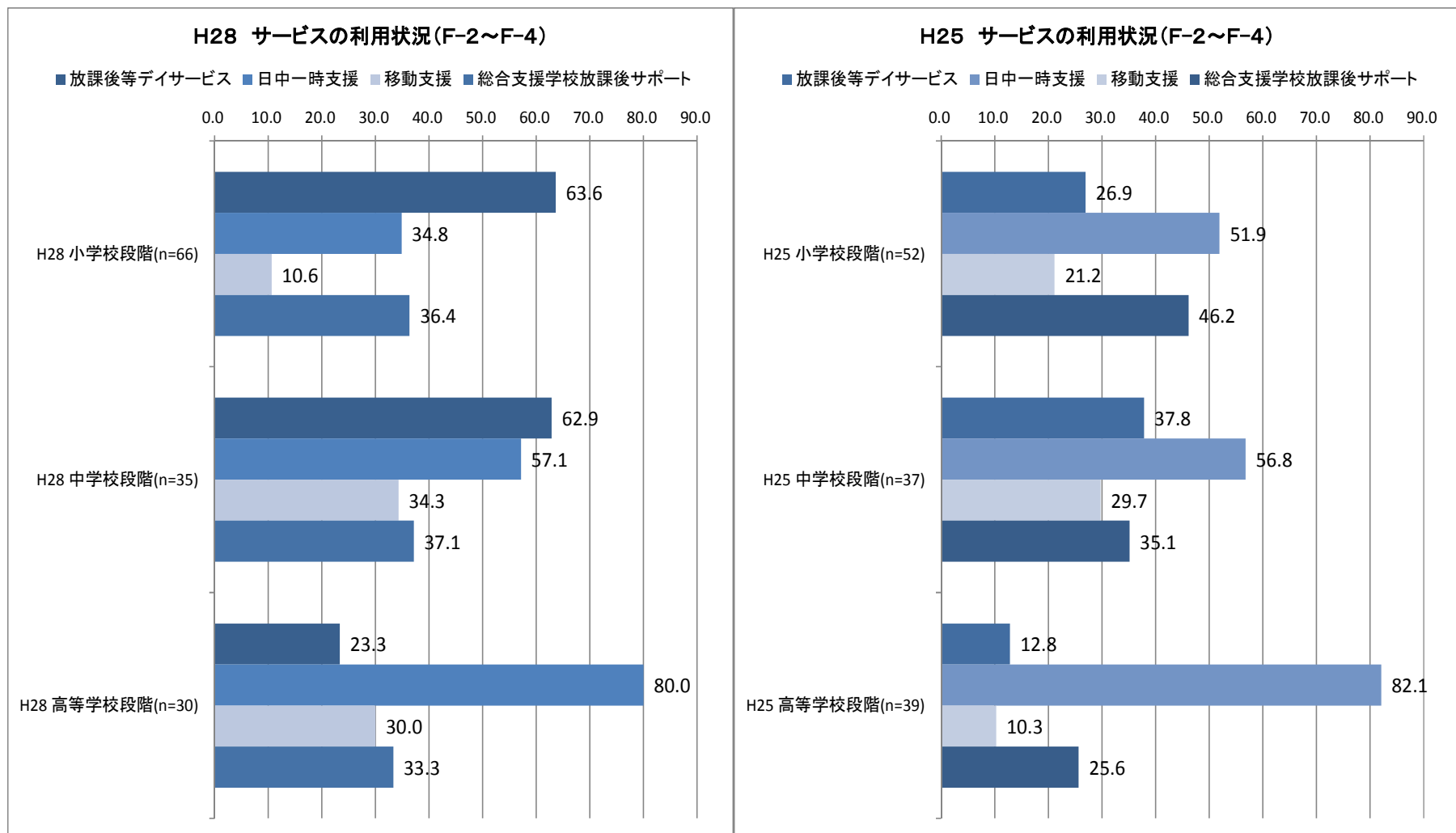
○全体では、「利用している」が50.6%、「利用していない」が47.3%である。特に就学前児童の利用している割合(71.2%)が高い。H25調査と比較しても、就学前児童が33ポイント高い。

5.調査結果(4-6) F票(学校・サービス・就労・進路など)



○「児童発達支援」が83.8%と最も高く、次に「保育所等訪問支援」が16.2%である。H25調査と比較すると、「日中一時支援」が7ポイント、「短期入所」が6ポイント低い。

5.調査結果(4-7) F票(学校・サービス・就労・進路など)

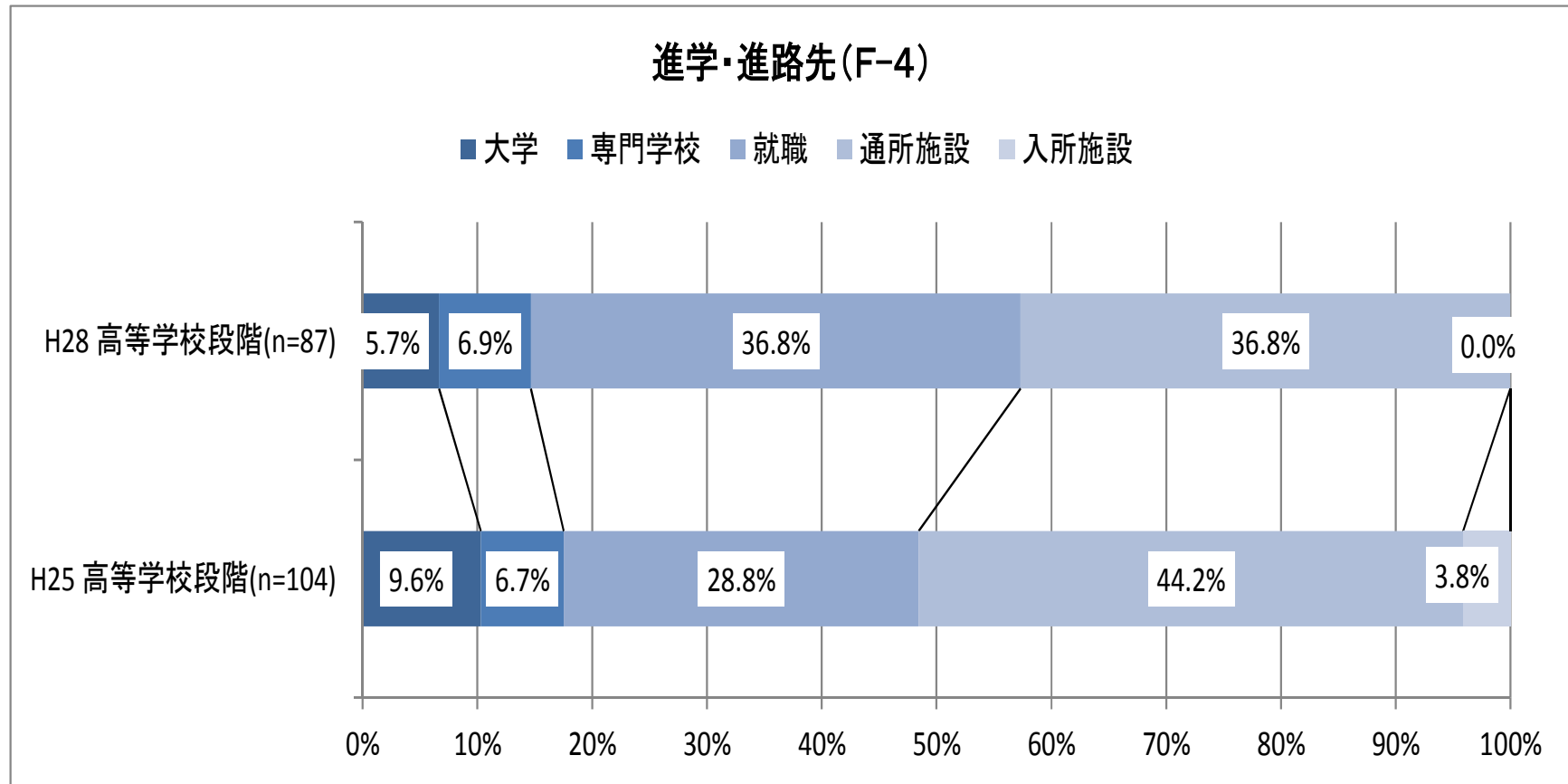


○小学校段階:「放課後等デイサービス」が63.6%と高い。H25調査より、37ポイント高い。

○中学校段階:「放課後等デイサービス」が62.9%と高い。H25調査より、25ポイント高い。

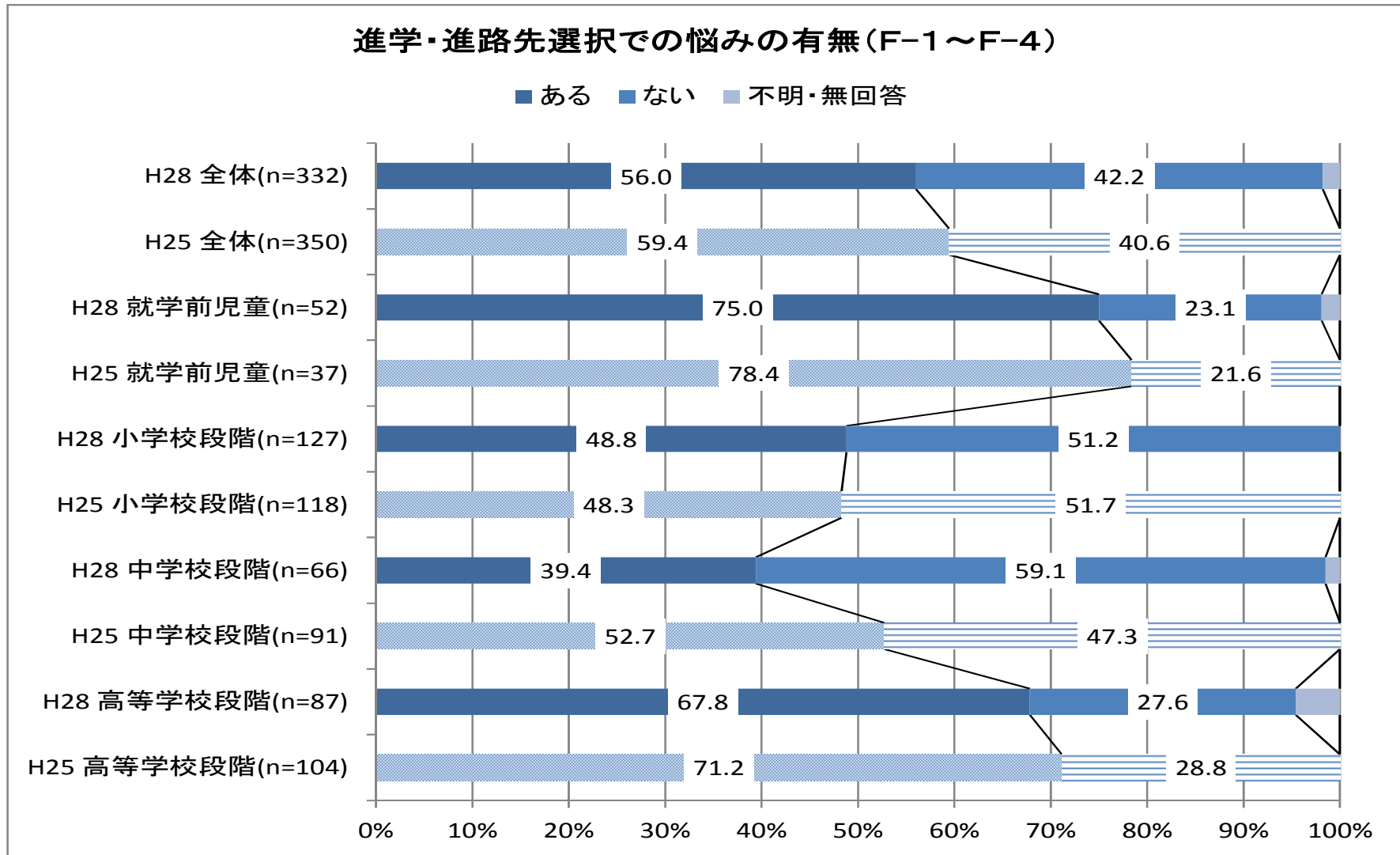
○高等学校段階:「日中一時支援」が80.0%と高い。H25調査と比較すると「移動支援」が20ポイント高い。

5.調査結果(4-8) F票(学校・サービス・就労・進路など)



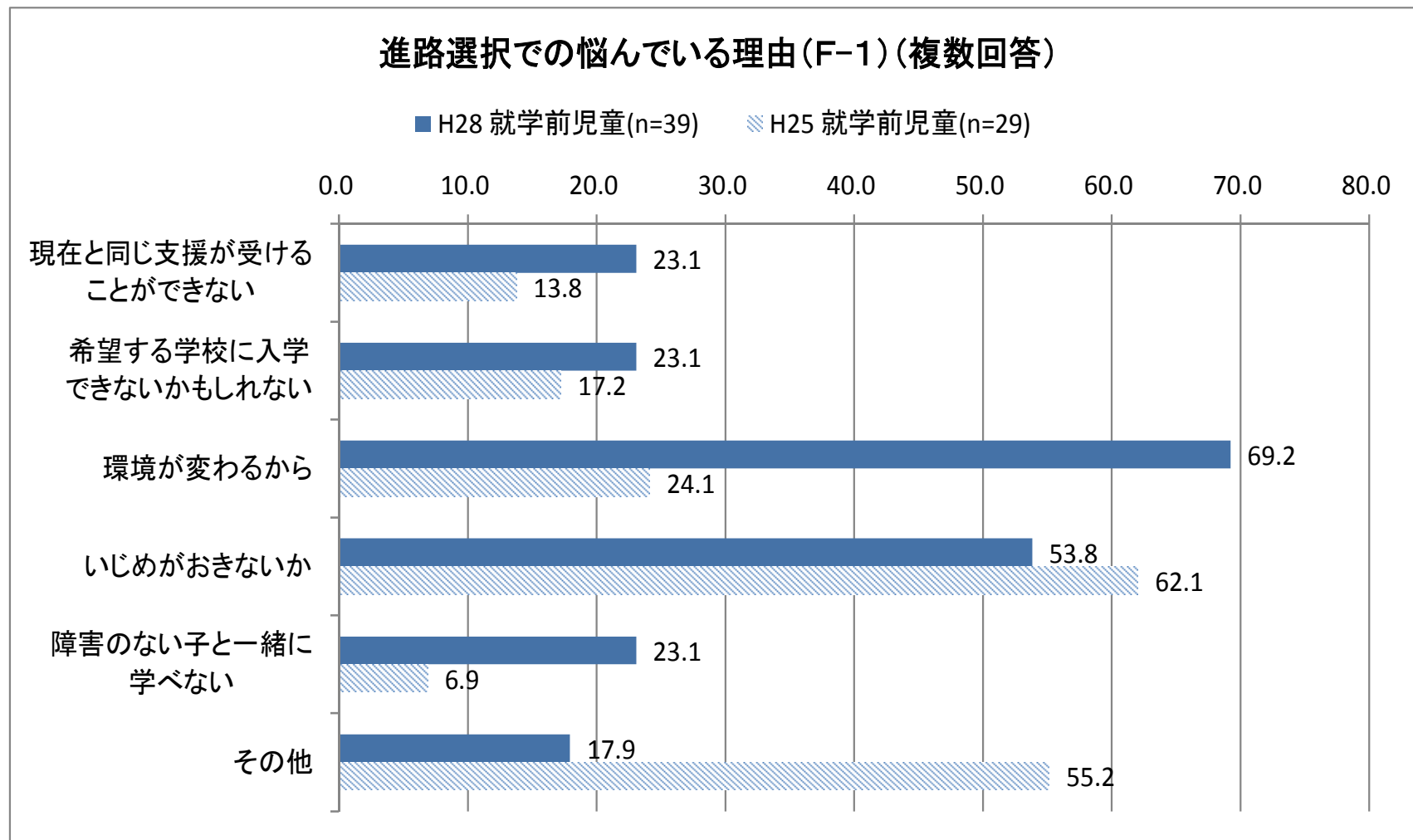
○高等学校段階において、進学・進路先として考えていることは、「通所施設」と「就職」がともに36.8%で最も高い。H25調査と比較すると、「就職」が8ポイント高く、「通所施設」が7ポイント低い。また「大学」は4ポイント低い。

5.調査結果(4-9) F票(学校・サービス・就労・進路など)



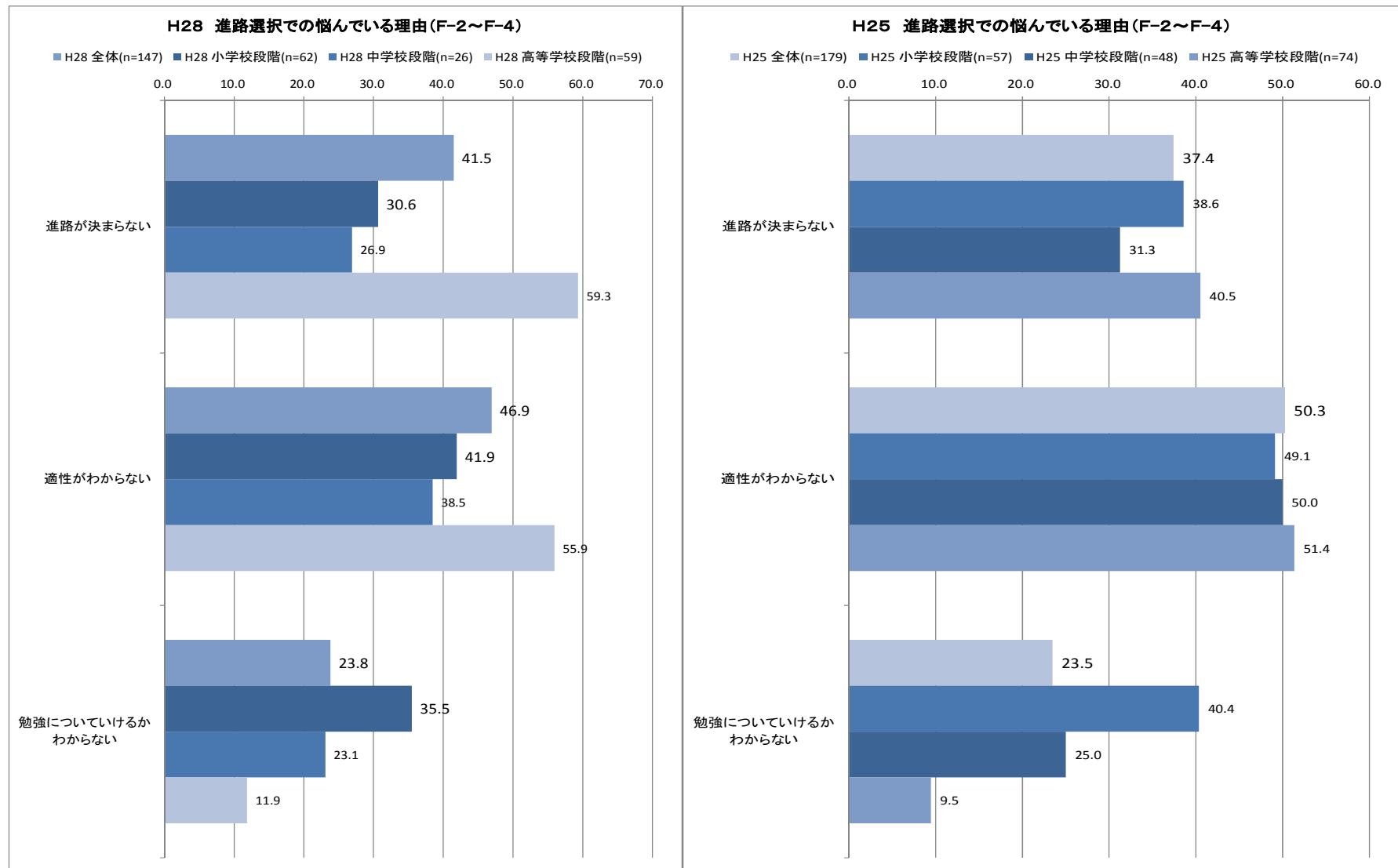
○全体では、「ある」が56.0%、就学前児童が75.0%と最も高い。H25調査と比較すると、中学校段階が13ポイント低い。

5.調査結果(4-10) F票(学校・サービス・就労・進路など)



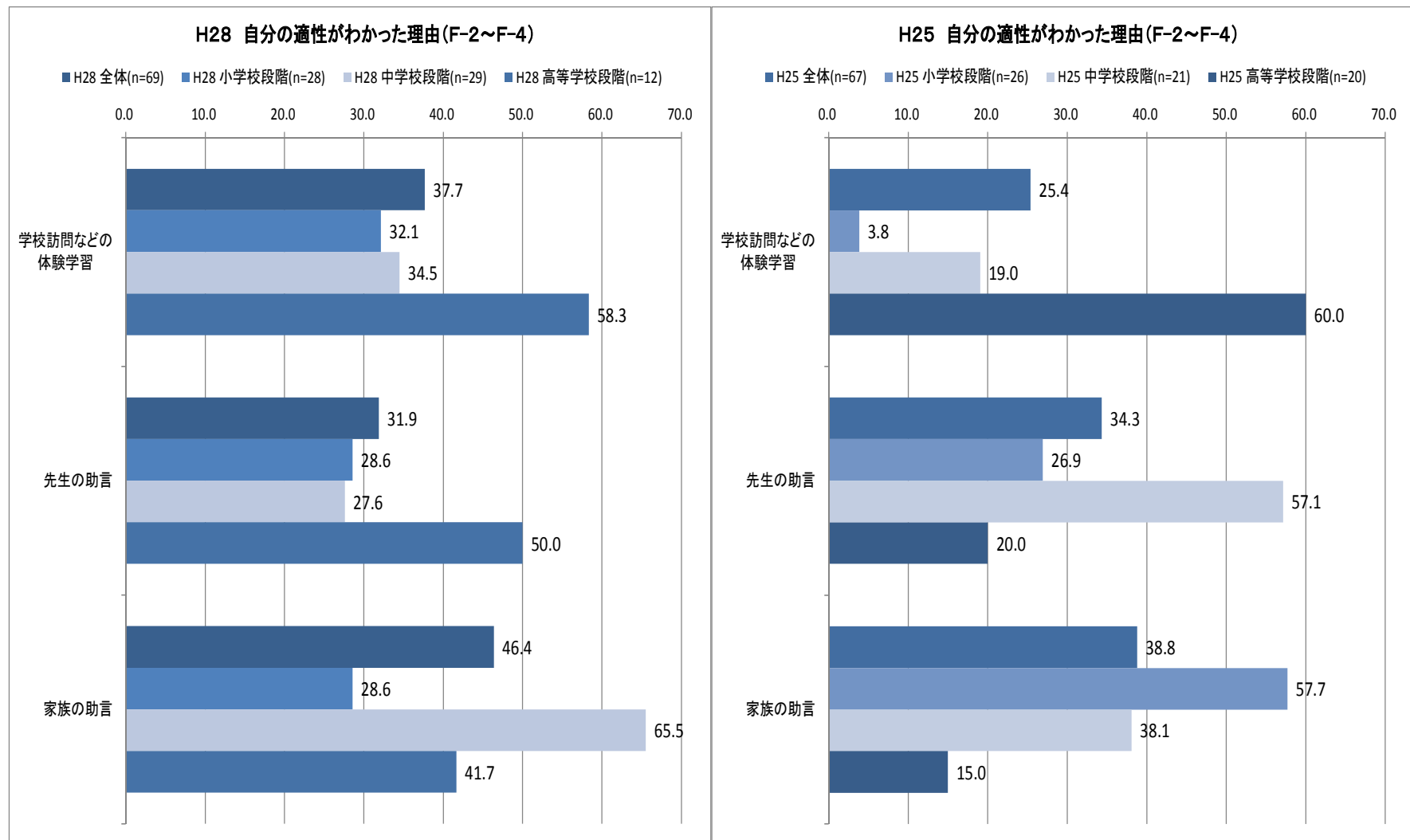
○「環境が変わるから」が69.2%と最も高く、次に「いじめがおきないか」が53.8%である。H25調査と比較すると、「環境が変わるから」が45ポイント高く、「いじめがおきないか」が8ポイント低い。

5.調査結果(4-11) F票(学校・サービス・就労・進路など)



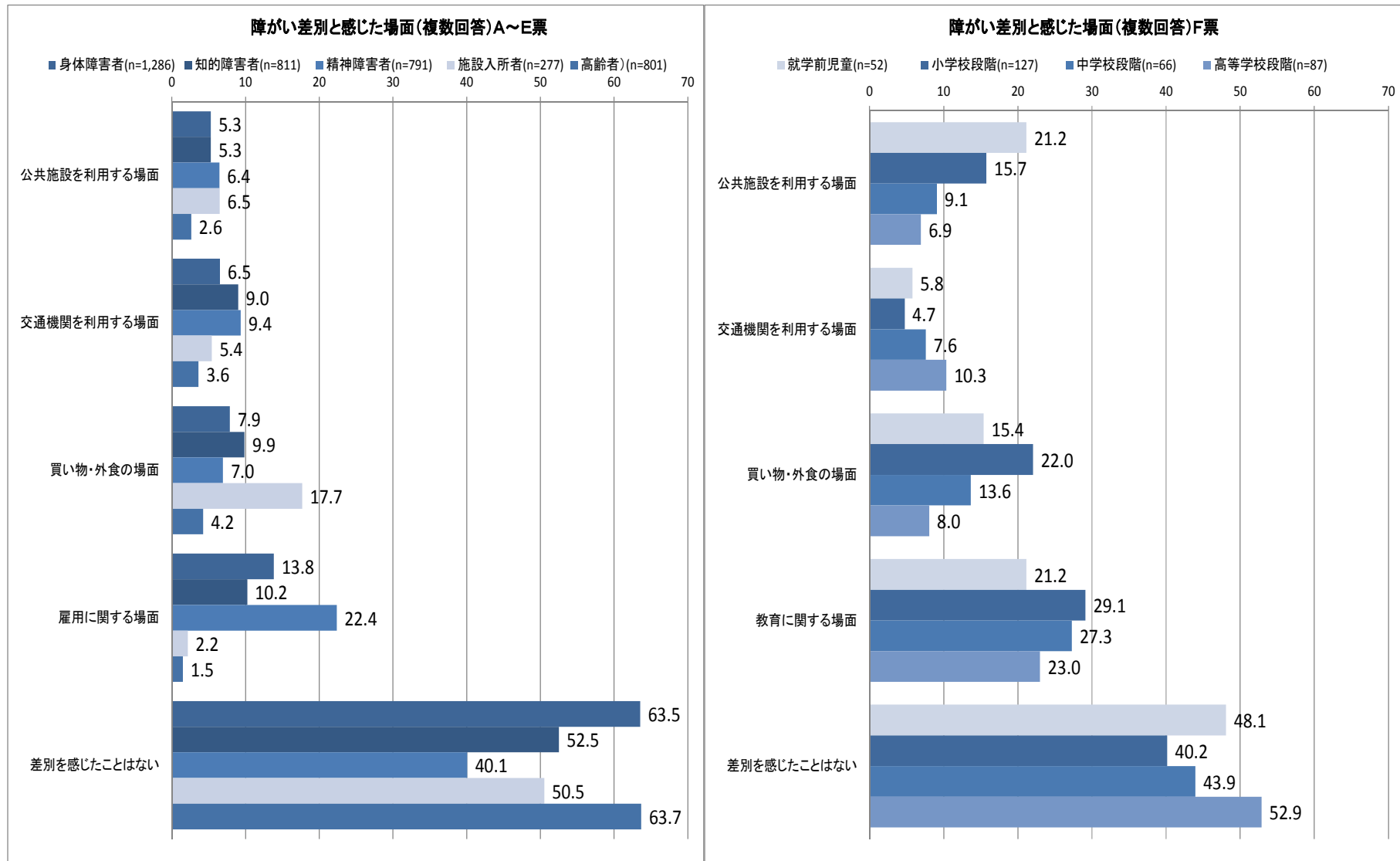
○全体では、「適性がわからない」が46.9%である。小学校・中学校段階では「適性がわからない」(41.9%・38.5%)、高等学校段階では「進路が決まらない」(59.3%)が高い。

5.調査結果(4-12) F票(学校・サービス・就労・進路など)



○全体では、「家族の助言」が46.4%と最も高く、次に「学校訪問などの体験学習」(37.7%)、「先生の助言」(31.9%)である。H25調査と比較すると、小学校段階では、「学校訪問などの体験学習」が28ポイント、中学校段階では、「家族の助言」が27ポイント、高等学校段階では、「先生の助言」30ポイント、「家族の助言」が27ポイント高い。

5.調査結果(5-1) A～F票(障がい差別を感じた場面など)



○全般的に「差別を感じたことはない」が高い。精神障害者では、「雇用に関する場面」(22.4%)、就学前児童では、「公共施設を利用する場面」(21.2%)、小学校段階では、「教育に関する場面」(29.1%)、「買い物・外食の場面」(22.0%)、高等学校段階では、「交通機関を利用する場面」(10.3%)が高い。